

令和4年度実施

「健康と生活に関する調査」 報告書

令和5年3月

大阪府こころの健康総合センター

目 次

1 調査目的	3
2 調査方法	
(1) 調査対象	3
(2) 調査票の配布および回収時期	3
(3) 調査内容	3
(4) 調査票配布と回収方法	4
3 回収率および無効回答の定義	
(1) 回答必須項目の設定	4
(2) 回答ミスの取り扱い	4
4 年齢調整方法	5
5 報告書の表記および分析方法	5
6 調査結果の考察にかかる検討会議	5
7 調査結果	
7.1 対象者の基本属性・背景情報	
(1) 回答者の性別・年齢	6
(2) 婚姻状況	7
(3) 同居者の種類と同居人数、18歳以下の子どもの有無	8
(4) 職業	10
(5) 仕事の種類	10
(6) 学歴	11
(7) 年収	12
7.2 ギャンブル等行動	
(1) ギャンブル等の経験(生涯、過去1年)	13
(2) 経験したギャンブル等の種類(生涯、過去1年)	15
(3) 公営競技等: 主な券の購入方法	16
(4) ギャンブル等に費やすお金	17
(5) ギャンブル等開始年齢	19
(6) ギャンブル等に関する相談先	21
(7) 家族や重要な他者のギャンブル等問題とその影響	22
7.3 「ギャンブル等依存が疑われる者」の割合の推計	
(1) SOGS(South Oaks Gambling Screen)による割合の推計	25
(2) PGSI(The Problem Gambling Severity Index)による割合の推計	27
7.4 「ギャンブル等依存が疑われる者」におけるギャンブル等行動	
(1) SOGS5点以上- 過去1年間で経験したギャンブル等の種類	28
(2) 公営競技等: 主な券の購入方法(SOGS5点以上5点未満の比較)	29

(3) SOGS5 点以上- 過去1年間で1カ月あたりにギャンブル等に費やす金額	30
(4) SOGS5 点以上- 過去1年間最もお金をつぎこんだギャンブル等の種類	31
7.5 「ギャンブル等依存が疑われる者」におけるギャンブル等関連問題	
(1) ギャンブル等問題と抑うつ、不安との関連	32
(2) ギャンブル等問題と希死念慮・自殺企図との関連	33
(3) ギャンブル等問題と喫煙の関連	35
(4) ギャンブル等問題と飲酒問題との関連	36
(5) ギャンブル等問題と小児期逆境体験との関連	37
7.6 「家族や重要な他者のギャンブル等問題のある(あった)者」と抑うつ、不安との関連	
(1) 「家族や重要な他者のギャンブル等問題のある(あった)者」と抑うつ、不安との関連	38
7.7 ギャンブル等依存症に対する認識とギャンブル等依存症対策の認知度	
(1) ギャンブル等依存症に対する認識	39
(2) ギャンブル等依存症対策の認知度	40
7.8 ゲーム、インターネットの利用時間	
(1) ゲームの利用時間	41
(2) インターネットの利用時間	42
8 調査結果のまとめ	43
9 調査結果の考察	45

おわりに

巻末資料

この報告書では、「ギャンブル等」および「ギャンブル等依存症」という用語を下記の意味で用いる。

「ギャンブル等」とは…金銭や品物などの財物を賭けて偶然性の要素が含まれる勝負を行い、その勝負の結果によって賭けた財物のやりとりを行う行為である。日本国内における競馬、競輪、競艇などの公営ギャンブルのほか、海外のギャンブル(カジノ、ブックメーカー等)や、違法ギャンブル(裏カジノ、賭け麻雀等)などが含まれる。パチンコ・パチスロも含む。

なお、本調査における具体的なギャンブル等の種類は、あらかじめ調査票にリストとして提示した上で、ギャンブル等に関連する質問を行った。下記に調査票より抜粋したギャンブル等の種類のリストを示す。

この調査では、下の(ア)～(シ)の種目をギャンブル等とした。

- (ア) パチンコ
- (イ) パチスロ
- (ウ) 競馬
- (エ) 競輪
- (オ) 競艇
- (カ) オートレース
- (キ) 宝くじ(ロト・ナンバーズ等も含む)
- (ク) スポーツ振興くじ(サッカーくじ等)
- (ケ) インターネットを使ったギャンブル(競馬、競輪、競艇、オートレース、宝くじ、スポーツ振興くじを除く)
- (コ) 証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX
- (サ) 海外のカジノ
- (シ) その他のギャンブル

「ギャンブル等依存症」とは…「ギャンブル等依存症対策基本法(以下、「基本法」という。)第2条において、ギャンブル等依存症とは、「ギャンブル等(法律の定めるところにより行われる公営競技、ぱちんこ屋に係る遊技その他の射幸行為をいう。)にのめり込むことにより日常生活又は社会生活に支障が生じている状態」と定義している。本報告書では、基本法第2条に定める「ギャンブル等依存症」と、医学的疾患概念である「病的賭博(ICD10)」、「ギャンブル障害(DSM-5)」を同義として扱うこととする。

1 調査目的

この調査は、令和2年3月に策定された「大阪府ギャンブル等依存症対策推進計画」に基づいて、大阪府におけるギャンブル等依存症に関する実態を把握し、今後の大阪府におけるギャンブル等依存症対策を考えるための資料とすることを目的として実施した。

2 調査方法

(1) 調査対象

調査対象者は、大阪府の市区町村 72 地点に在住する満 18 歳以上の者から、層化二段無作為抽出法を用いて 18,000 人を抽出した。

(2) 調査票の配布および回収時期

令和4年11月1日～令和4年11月30日

(3) 調査内容

調査票名：「健康と生活に関する調査」

調査項目

①基本属性・背景情報

性別、年齢、婚姻状況、同居者、職業、学歴、年収等

②ギャンブル等行動

- ・ 生涯・過去1年間のギャンブル等経験の有無
- ・ 生涯・過去1年間に経験したギャンブル等の種類、頻度、ギャンブル等に使う金額等

③ギャンブル等関連問題

- ・ 借金に関する質問
- ・ 小児期逆境体験
- ・ 希死念慮・自殺企図の有無
- ・ 抑うつ・不安のスクリーニングテスト(Kessler6: K6)

④ギャンブル障害のスクリーニングテスト

- ・ SOGS、PGSI

<本調査で用いたギャンブル障害のスクリーニングテストの概要>

◆ SOGS (South Oaks Gambling Screen)

アメリカのサウスオクス財団が開発した病的ギャンブラーを検出するための自記式スクリーニングテストである。原版の質問数は16問だが、点数にはならない質問が4問含まれている。ギャンブル障害に関する国内外の疫学調査で数多く採用されており、わが国では、2008年、2013年、2017年の全国調査で用いられた。得点範囲は0点～20点で、本報告書では、SOGS 合計得点が5点以上の者を「ギャンブル等依存が疑われる者」とした。なお、3～4点の者は「ギャンブル等依存に至るおそれがある者」とされている。

◆ PGSI (The Problem Gambling Severity Index)

9項目からなる自記式のスクリーニングテストで、地域住民を対象とした疫学調査で用いることを目的に開発された。得点範囲は0点～27点で、本報告書では、PGSIで8点以上を「ギャンブル等依存が疑われる者」とした。なお、1～2点の者は「低リスクギャンブラー」、3～7点の者は「中等度問題ギャンブラー」とされている。

⑤クロスアディクション

- ・ギャンブル等問題と喫煙・アルコール問題(AUDIT-C)との関連

⑥その他

- ・ギャンブル等依存症に対する認識
- ・ギャンブル等依存症対策の認知度
- ・ギャンブル等問題に関する相談先
- ・重要な他者のギャンブル等問題の有無と、重要な他者のギャンブル等問題から受けた影響 等

(4)調査票配布と回収方法

調査票は、対象者の住民基本台帳に登録のある居住地宛に、回答案内(Web回答の案内を含む)と調査票、返送用封筒を送付した。

なお、回答方法は、下記いずれかを調査対象者が任意に選択できる形式とした。

- ① 紙の調査票に回答して返送する形式(郵送回答)
- ② インターネット経由でWeb回答する形式(Web回答)

3 回収率および無効回答の定義

総回収数は3,886票(郵送回答:2,742票、Web回答:1,144票)、回収率は21.6%であった。有効票は3,785票(郵送回答:2,650票、Web回答:1,135票)、有効回答率は21.0%であった。以下の(1)に該当した101票は無効票とした。

(1)回答必須項目の設定

性別・年齢を回答必須項目とし、これらの項目に「無回答」、「その他」、「答えたくない」と回答した場合は、無効票とした。

(2)回答ミスの取り扱い

ア 単一選択設問に複数選択している場合

単一選択すべき設問に、複数選択している場合は、原則不適切回答として集計から除外することとした。ただし、下記の場合は、有効回答として集計対象に含めることとした。

- ・例1:「答えたくない」とそれ以外の選択肢を選択している場合、それ以外の選択肢を優先
- ・例2:問4で「一人暮らし」とそれ以外の選択肢を選択している場合、「一人暮らし」を優先

イ 数値を答える質問における異常値

年齢や金額等について、選択肢ではなく数値を回答する設問では、論理的に説明が付かない数値や、社会常識から想定されない数値等の場合は異常値とみなし、集計から除外することとした。

ウ 設問間の矛盾

関連性のある複数の設問間で矛盾する内容の回答をしている場合は、質問ごとに、下記のいずれかの処理を実施することとした。

- ・不適切回答として集計の対象外とする。
- ・どちらかの設問を正とし、もう片方の設問を訂正して集計対象とする。

4 年齢調整方法

「ギャンブル等依存が疑われる者の割合の推計」にあたり、本調査で得られたSOGS得点およびPGSI得点の分布について、年齢階級ごとの回答者数の偏りを人口で補正し、「年齢調整後の割合」を算出した。

年齢調整方法は、20歳以上の回答者については、令和2年10月1日現在人口¹を基準として、性別・年齢階級別(5歳区分)、直接法にて年齢調整を実施した。また、18～19歳の回答者は、同様の令和2年国勢調査人口等基本集計を基準として、18～19歳を1区分、性別、直接法にて年齢調整を実施した。

5 報告書の表記および分析方法

(1) 報告書の表記

・集計結果は、小数点第2位を四捨五入しており、表記値と計算値との演算誤差が生じることがあるため、回答比率の合計が100.0%とならないことがある。

・図中の「n」は集計対象者数(あるいは、分類別の該当対象者数)を示し、各選択肢の回答比率は「n」を集計母数として算出した。

(2) 分析方法

一部の質問結果の解析には、男女差、およびSOGS得点による「ギャンブル等依存が疑われる者」とそうでない者における傾向の違いを検証するために、 χ^2 検定を用いた。

6 調査結果の考察にかかる検討会議

本調査結果の分析及び解釈等について検討し、事務局(大阪府こころの健康総合センター)に助言するための会議を、以下により開催した。

- 会議名:「健康と生活に関する調査」結果検討会議
- 開催状況:下表のとおり
- 委員名簿:巻末資料「(1)「健康と生活に関する調査」結果検討会議委員名簿(五十音順 敬称略)」
参照

回数	開催日	開催方法	議事
第1回	令和5年1月31日(火)	オンライン	(1)「健康と生活に関する調査」の結果について (2)その他
第2回	令和5年2月28日(火)	オンライン	(1)「健康と生活に関する調査」の結果考察について (2)今後の実態調査について (3)その他

¹ 総務省統計局 人口推計 各年10月1日現在人口 2020年版

7 調査結果

以下、「健康と生活に関する調査」調査票の設問ごとに結果の概要を示す。

結果の見方の留意点：質問によって集計対象の総サンプル数が有効票(3,785票)と異なる場合がある。その際は図表の下に集計したサンプル数や除外理由を示した。また、質問には、調査対象者全員に尋ねる質問と、選んだ選択肢によって一部の該当者のみ答える質問がある。

7.1 対象者の基本属性・背景情報

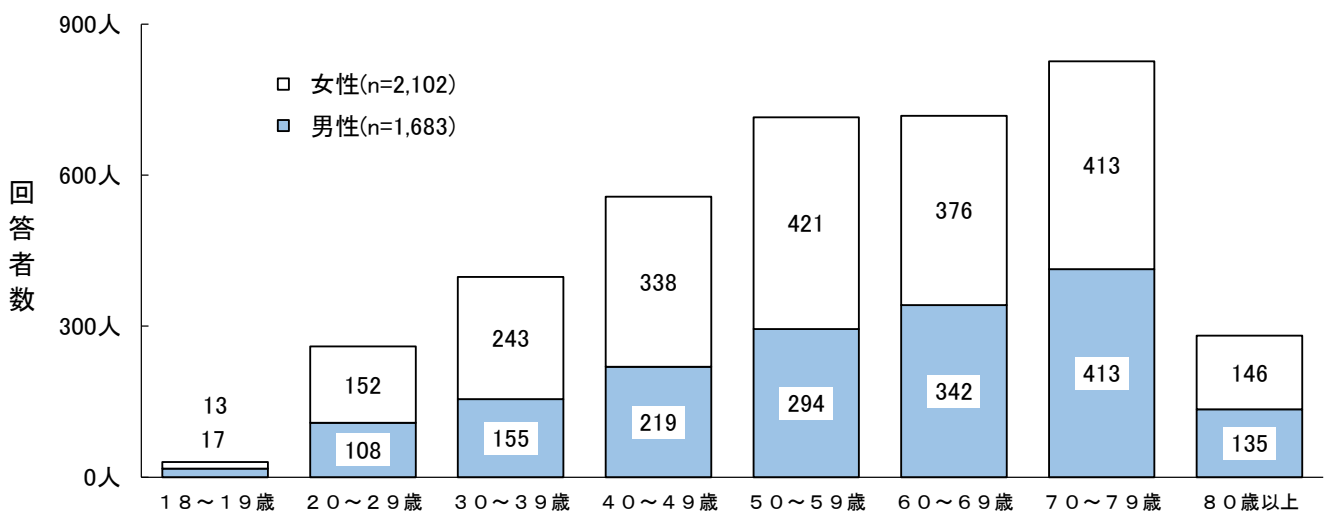
(1) 回答者の性別・年齢

【問1】 あなたの性別を教えてください。(単一選択)

【問2】 あなたの年齢を教えてください。(単一選択)

男性が1,683名(44.5%)、女性が2,102名(55.5%)で、男性の平均年齢は58.5歳(標準偏差17.0歳)、女性の平均年齢は55.9歳(標準偏差16.9歳)であった。総務省統計局人口推計令和2年10月1日人口²より算出した大阪府の性別人口比、年齢階級別人口比と比べて50～70歳代の分布が多かった。(図表1)

図表1 回答者の性・年齢



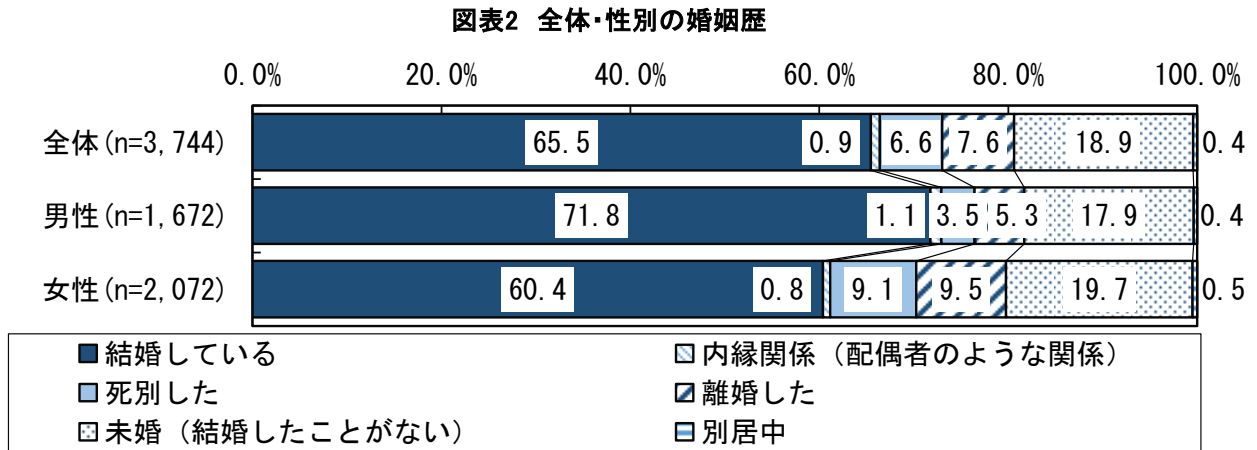
² 総務省統計局人口推計各年10月1日現在人口2020年版

(2) 婚姻状況

【問3】【婚姻歴】 あなたは現在、結婚されていますか。

あなたの状況に最も近いものを1つ選んでください。(単一選択)

全体の65.5%が「結婚している」で最も多く、「未婚」は18.9%、「離婚した」は7.6%であった。(図表2)



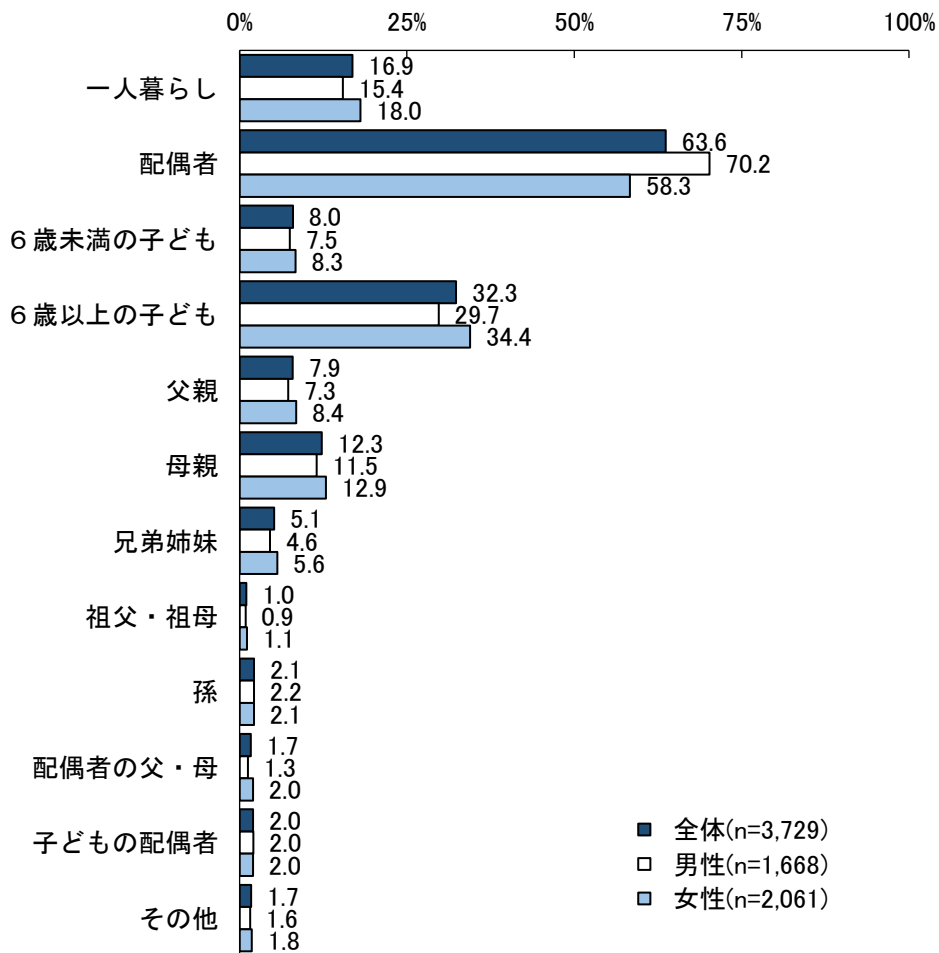
※問3 集計から除外: 無回答(n=5)、答えたくない(n=36)

(3)同居者の種類と同居人数

【問4】【同居者】あなたは現在、誰と住んでいますか。(複数選択)

配偶者(63.6%)や6歳以上の子ども(32.3%)と同居している者が多く、一人暮らしは全体の16.9%であった。
(図表3)

図表3 全体・性別の同居者



※問4 集計から除外: 無回答(n=8)、答えたくない(n=48)

【問5】【同居人数】 現在のお住まいと一緒に暮らしている方は、あなたご自身を含めて何人いますか。

同居人数について、1人(16.7%)、2人(36.8%)、3人(22.8%)、4人(16.2%)であった。(図表4)

参考値:直近の国勢調査による大阪府の一般世帯の世帯人員の割合³は、1人(41.8%)、2人(27.2%)、3人(15.5%)、4人(11.4%)、5人(3.2%)、6人(0.7%)、7人以上(0.2%)であった。

図表4 同居人数

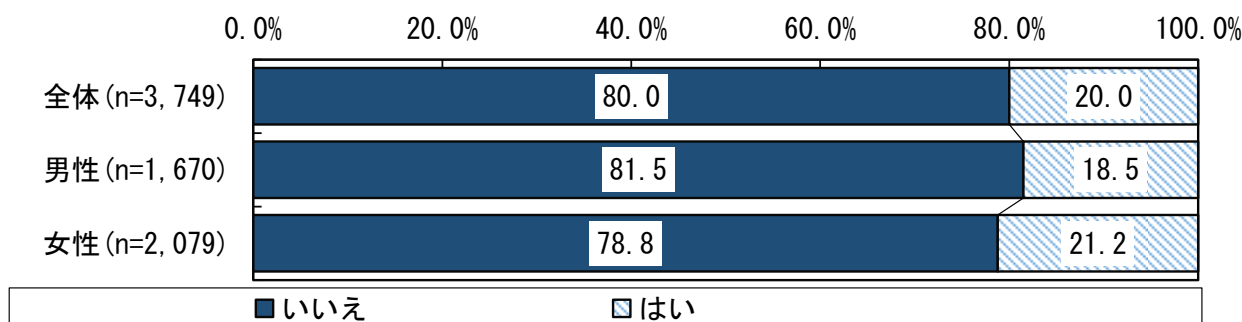
同居人数(本人含む)	男性	女性	全体
1人	256 (15.4%)	365 (17.7%)	621 (16.7%)
2人	639 (38.4%)	731 (35.4%)	1,370 (36.8%)
3人	394 (23.7%)	454 (22.0%)	848 (22.8%)
4人	244 (14.7%)	359 (17.4%)	603 (16.2%)
5人	85 (5.1%)	113 (5.5%)	198 (5.3%)
6人	31 (1.9%)	28 (1.4%)	59 (1.6%)
7人	9 (0.5%)	10 (0.5%)	19 (0.5%)
8人	2 (0.1%)	2 (0.1%)	4 (0.1%)
9人	0 (0.0%)	1 (0.0%)	1 (0.0%)
10人以上	2 (0.1%)	0 (0.0%)	2 (0.1%)
全体	1,662 (100.0%)	2,063 (100.0%)	3,725 (100.0%)

※ 問5 集計から除外:無回答(n=60)

【問6】【18歳以下の子どもの有無】 現在のあなたは18歳以下のお子さんを子育て中ですか。(単一選択)

18歳以下の子どもを子育て中の人 は20.0%であった。(図表5)

図表5 18歳以下の子どもの有無



※ 問6 集計から除外:、無回答(n=36)

³ 「令和2年国勢調査結果」(総務省統計局)

(4) 職業

【問7】【職業】現在のあなたの職業を教えてください。(単一選択)

男性の就業者では「正社員・正職員」38.5%、「契約・派遣・嘱託・パート・アルバイト」14.1%、「自営・自由業者・経営者(家族従業を含む)」13.1%の順で回答した割合が高かった。非就業者では「無職(退職者、今後就業予定のない)」が26.8%であった。女性の就業者では、「契約・派遣・嘱託・パート・アルバイト」26.0%、「正社員・正職員」23.8%であった。「専業主婦」は27.0%であった。(図表6)

図表6 職業

職業	男性	女性	全体
自営・自由業者・経営者(家族従業を含む)	219 (13.1%)	133 (6.4%)	352 (9.4%)
勤め(正社員・正職員)	646 (38.5%)	497 (23.8%)	1,143 (30.4%)
勤め(契約・派遣・嘱託・パート・アルバイト)	237 (14.1%)	543 (26.0%)	780 (20.7%)
学生	38 (2.3%)	37 (1.8%)	75 (2.0%)
家事専業(専業主婦・専業主夫)	8 (0.5%)	564 (27.0%)	572 (15.2%)
無職(求職中、失業中、進路未定を含む)	55 (3.3%)	51 (2.4%)	106 (2.8%)
無職(退職、今後就業予定はない)	449 (26.8%)	231 (11.1%)	680 (18.1%)
その他	25 (1.5%)	31 (1.5%)	56 (1.5%)
全体	1,677 (100.0%)	2,087 (100.0%)	3,764 (100.0%)

※問7 集計から除外:無回答(n=21)

(5) 仕事の種類

【問8】【仕事の種類】あなたはどのような種類の仕事をしていますか。(単一選択)

就業者における職種は、男性は「専門・技術職」24.3%、「生産現場・技能職」16.3%、「管理職」14.2%の順で割合が高かった。女性では「事務職」32.2%、「専門・技術職」28.1%、「サービス職」16.4%の順で割合が高かった。(図表7)

図表7 仕事の種類

仕事の種類	男性	女性	全体
専門・技術職	269 (24.3%)	332 (28.1%)	601 (26.3%)
管理職	157 (14.2%)	21 (1.8%)	178 (7.8%)
事務職	134 (12.1%)	380 (32.2%)	514 (22.5%)
販売職	118 (10.7%)	109 (9.2%)	227 (9.9%)
サービス職	88 (7.9%)	194 (16.4%)	282 (12.3%)
生産現場・技能職	180 (16.3%)	53 (4.5%)	233 (10.2%)
運輸・保安職	110 (9.9%)	15 (1.3%)	125 (5.5%)
農・林・漁業	6 (0.5%)	2 (0.2%)	8 (0.3%)
その他	45 (4.1%)	75 (6.4%)	120 (5.2%)
全体	1,107 (100.0%)	1,181 (100.0%)	2,288 (100.0%)

※問8 集計から除外:無回答(n=43)

(6) 学歴

【問10】【最終学歴】 あなたの最終学歴を教えてください。(単一選択)

男性では「大学卒業」38.6%、「高校・高専卒業」31.5%、女性では「高校・高専卒業」32.1%、「短大・専門学校卒業」30.6%と回答した割合が高かった。(図表8)

図表8 最終学歴

学歴	男性	女性	全体
中学校 卒業	129 (7.7%)	144 (7.0%)	273 (7.3%)
高校・高専 中退	69 (4.1%)	71 (3.5%)	140 (3.8%)
高校・高専 卒業	524 (31.5%)	659 (32.1%)	1,183 (31.8%)
短大・専門学校 中退	12 (0.7%)	30 (1.5%)	42 (1.1%)
短大・専門学校 卒業	115 (6.9%)	627 (30.6%)	742 (20.0%)
大学 中退	44 (2.6%)	7 (0.3%)	51 (1.4%)
大学 卒業	643 (38.6%)	457 (22.3%)	1,100 (29.6%)
大学院 中退	4 (0.2%)	2 (0.1%)	6 (0.2%)
大学院 修了	112 (6.7%)	41 (2.0%)	153 (4.1%)
その他	13 (0.8%)	13 (0.6%)	26 (0.7%)
全体	1,665 (100.0%)	2,051 (100.0%)	3,716 (100.0%)

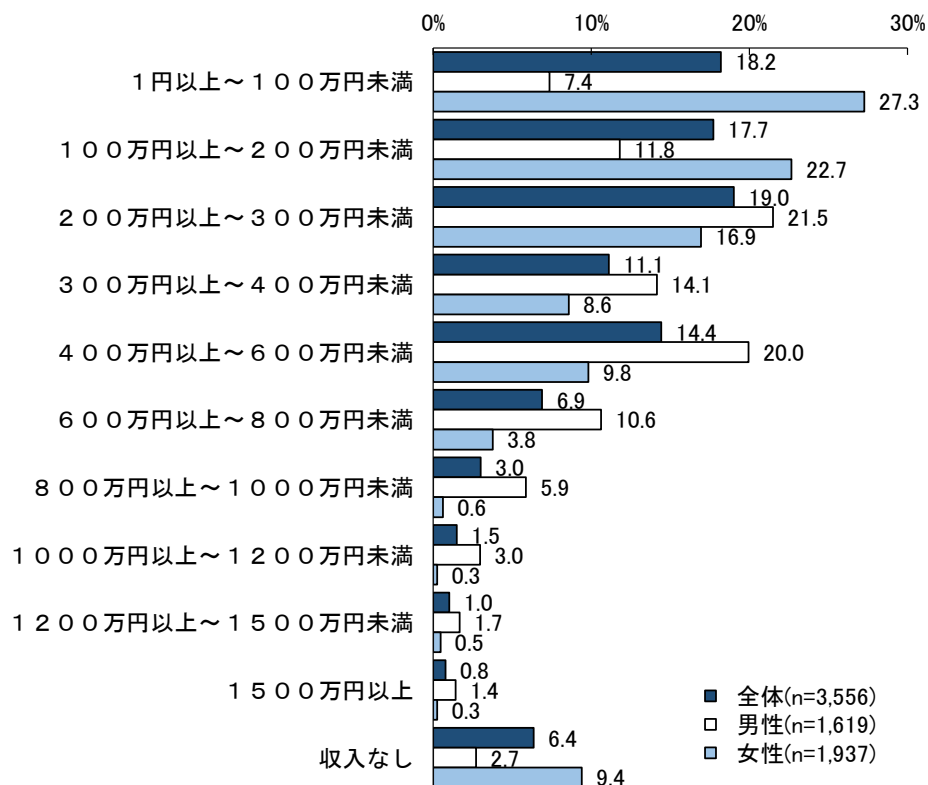
※問10 集計から除外:無回答(n=69)

(7) 年収

【問9】【税込み年収】 あなたの税込み年収は、だいたいどのくらいですか。年金などを受けている場合やアルバイト収入がある場合は、その額も含んだ合計額でお答えください。(単一選択)

男性では「200万円以上～300万円未満」21.5%、「400万円以上～600万円未満」20.0%、女性では「1円以上～100万円未満」27.3%と回答した割合が高かった。(図表9)

図表9 年収



※問9 集計から除外: 無回答(n=157)、わからない(n=72)

7.2 ギャンブル等行動

(1)ギャンブル等の経験(生涯、過去1年)

【問11】あなたはこれまでギャンブル等をしたことがありますか。(複数選択)

ギャンブル等を生涯において経験したことがあると回答した割合(生涯ギャンブル等経験あり)は、全体の70.8%(男性の82.8%、女性の61.1%)であった。過去1年間にギャンブル等を経験した割合は、全体の30.4%(男性の42.9%、女性の20.4%)であった(図表10・図表11)。年代別でみると、生涯ギャンブル等経験率が高いのは、50～59歳(81.0%)であった。さらに、年代別の過去1年でのギャンブル等経験率が最も高かったのも、50～59歳(37.1%)であった(図表12)。

図表10 ギャンブル等経験の有無(生涯、過去1年)

生涯ギャンブル等経験なし 1,106人(29.2%)	生涯ギャンブル等経験あり 2,679人(70.8%)	
	過去1年ギャンブル等経験あり 1,150人(30.4%)	過去1年ギャンブル等経験なし 1,529人(40.4%)

※【問11】に無回答の者(n=243)は、「生涯ギャンブル等経験なし」として扱った。
※(%)はn=3,785における割合

図表11 男女別ギャンブル等経験率(生涯、過去1年)

	生涯ギャンブル等経験あり	過去1年ギャンブル等経験あり
男性 (n=1,683)	1,394人(82.8%)	722人(42.9%)
女性 (n=2,102)	1,285人(61.1%)	428人(20.4%)
全体 (n=3,785)	2,679人(70.8%)	1,150人(30.4%)

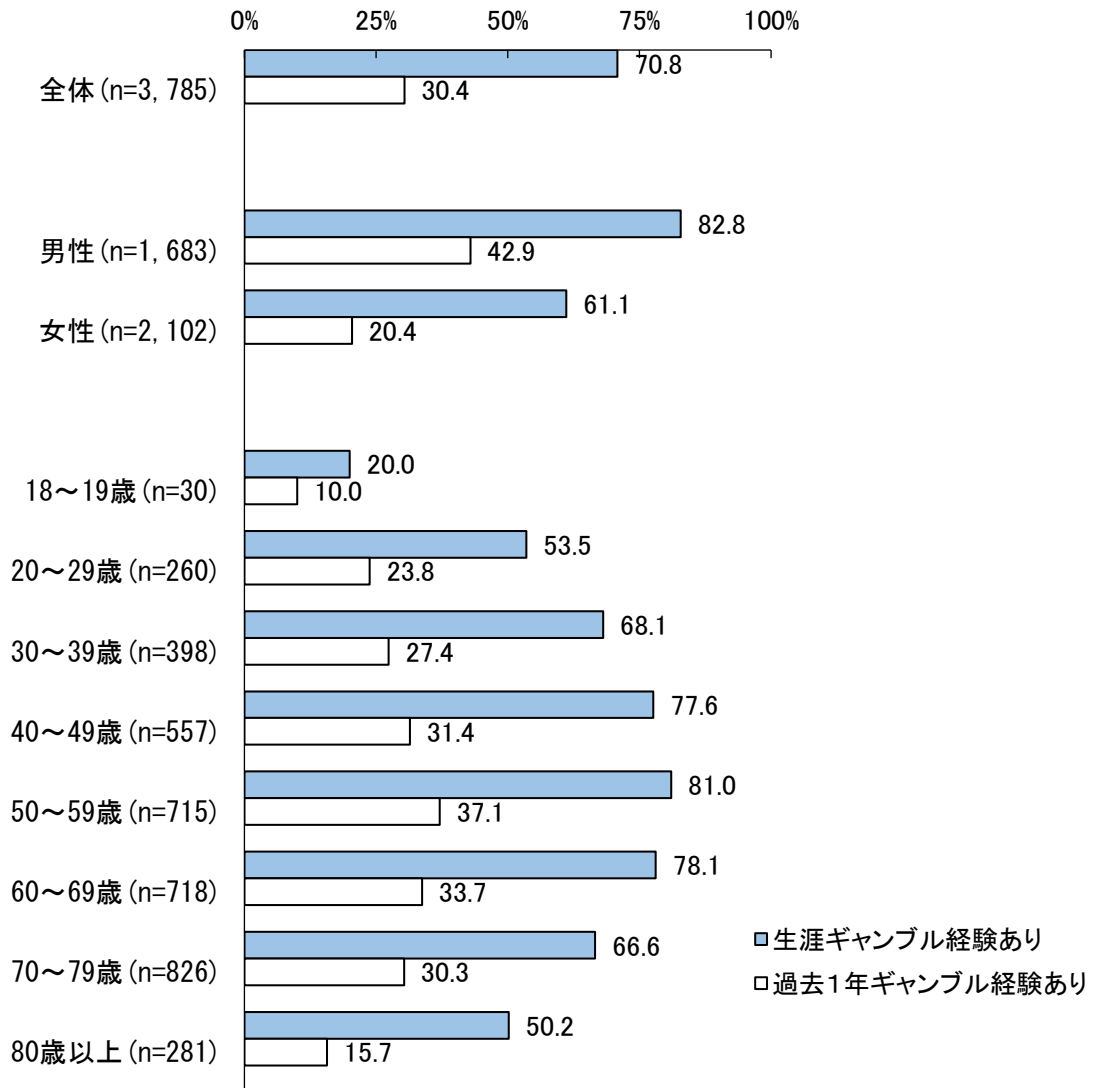
※【問11】に無回答の者(n=243)は、「生涯ギャンブル等経験なし」として扱った。
※(%)はn=3,785における割合

図表12 年代別ギャンブル等経験率(生涯、過去1年)

	生涯ギャンブル等経験あり	過去1年ギャンブル等経験あり
18～19歳 (n=30)	6人(20.0%)	3人(10.0%)
20～29歳 (n=260)	139人(53.5%)	62人(23.8%)
30～39歳 (n=398)	271人(68.1%)	109人(27.4%)
40～49歳 (n=557)	432人(77.6%)	175人(31.4%)
50～59歳 (n=715)	579人(81.0%)	265人(37.1%)
60～69歳 (n=718)	561人(78.1%)	242人(33.7%)
70～79歳 (n=826)	550人(66.6%)	250人(30.3%)
80歳以上 (n=281)	141人(50.2%)	44人(15.7%)
全体 (n=3,785)	2,679人(70.8%)	1,150人(30.4%)

※【問11】に無回答の者(n=243)は、「生涯ギャンブル等経験なし」として扱った。
※(%)は、各年代の有効票に占める割合

図表13 ギャンブル等経験率(生涯、過去1年)



※【問11】に無回答の者(n=243)は、「生涯ギャンブル等経験なし」として扱った。

※全体、性別の(%)はn=3,785における割合

※年代別の(%)は、各年代の有効票に占める割合

(2) 経験したギャンブル等の種類（生涯、過去1年）

【問12】 【問11】で○をつけたギャンブル等について、過去1年間はどのくらいの頻度で行っていましたか。

（各項目単一選択）

【経験したギャンブル等の種類（生涯、過去1年）と過去1年間の実施頻度】

生涯で経験したギャンブル等の種類は、「宝くじ（ロト・ナンバーズ等を含む）」61.5%、「パチンコ」52.3%、「競馬」34.3%、「パチスロ」19.6%の順で割合が高かった。

（%は有効票全体n=3,542に占める割合）

各種ギャンブル等のうち、「過去1年間に経験した」と回答した人数が多いのは、「宝くじ（ロト・ナンバーズ等を含む）」（n=794）、「パチンコ」（n=262）、「競馬」（n=255）であった。

なお、各種ギャンブル等について、生涯に1度以上経験があると回答した者が、過去1年間に当該ギャンブル等を実施している割合を算出したところ、「インターネットを使ったギャンブル（上記の中で券等の購入のためにインターネットを使ったものを除く）」51.1%、「証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX」42.3%、「宝くじ（ロト・ナンバーズ等も含む）」36.5%、「スポーツ振興くじ」32.5%の順で高かった。

また、ギャンブル等の種類ごとに、過去1年間における実施頻度を尋ねたところ、週1回以上実施したと回答した人数が多いのは、「宝くじ（ロト・ナンバーズ等も含む）」（n=134）、「パチンコ」（n=103）、「競馬」（n=60）、「パチスロ」（n=44）であった。（図表14）

図表14 経験したギャンブル等の種類（生涯と過去1年間）と過去1年間の頻度

ギャンブル等の種類	各種ギャンブル等の生涯における経験と過去1年間の経験の有無 【単位：人数(%)】				過去1年間にギャンブル等経験がある者におけるギャンブル等実施頻度 【単位：人数】	
	生涯経験あり (全体(3,542名)に占める人数と割合)	過去1年間の経験 (生涯経験ある者における割合)			週1回未満	週1回以上
		経験あり	経験なし	無回答		
パチンコ	1854 (52.3%)	262 (14.1%)	1567 (84.5%)	25 (1.3%)	159	103
パチスロ	695 (19.6%)	120 (17.3%)	566 (81.4%)	9 (1.3%)	76	44
競馬	1216 (34.3%)	255 (21.0%)	945 (77.7%)	16 (1.3%)	195	60
競輪	158 (4.5%)	25 (15.8%)	128 (81.0%)	5 (3.2%)	18	7
競艇(ボートレース)	291 (8.2%)	48 (16.5%)	240 (82.5%)	3 (1.0%)	34	14
オートレース	42 (1.2%)	6 (14.3%)	36 (85.7%)	0 (0.0%)	3	3
宝くじ(ロト・ナンバーズ等含む)	2178 (61.5%)	794 (36.5%)	1335 (61.3%)	49 (2.2%)	660	134
スポーツ振興くじ(サッカーくじ等)	329 (9.3%)	107 (32.5%)	216 (65.7%)	6 (1.8%)	82	25
インターネットを使ったギャンブル (上記の中で券等の購入のためにインターネットを使ったものを除く)	47 (1.3%)	24 (51.1%)	23 (48.9%)	0 (0.0%)	15	9
証券の信用取引、 先物取引市場への投資、FX	227 (6.4%)	96 (42.3%)	120 (52.9%)	11 (4.8%)	60	36
海外のカジノ	250 (7.1%)	6 (2.4%)	240 (96.0%)	4 (1.6%)	4	2
その他のギャンブル	39 (1.1%)	6 (15.4%)	31 (79.5%)	2 (5.1%)	5	1
上記のいずれもしたことはない	863 (24.4%)					

※集計から除外：問11無回答(n=243)

(3) 公営競技等: 主な券の購入方法

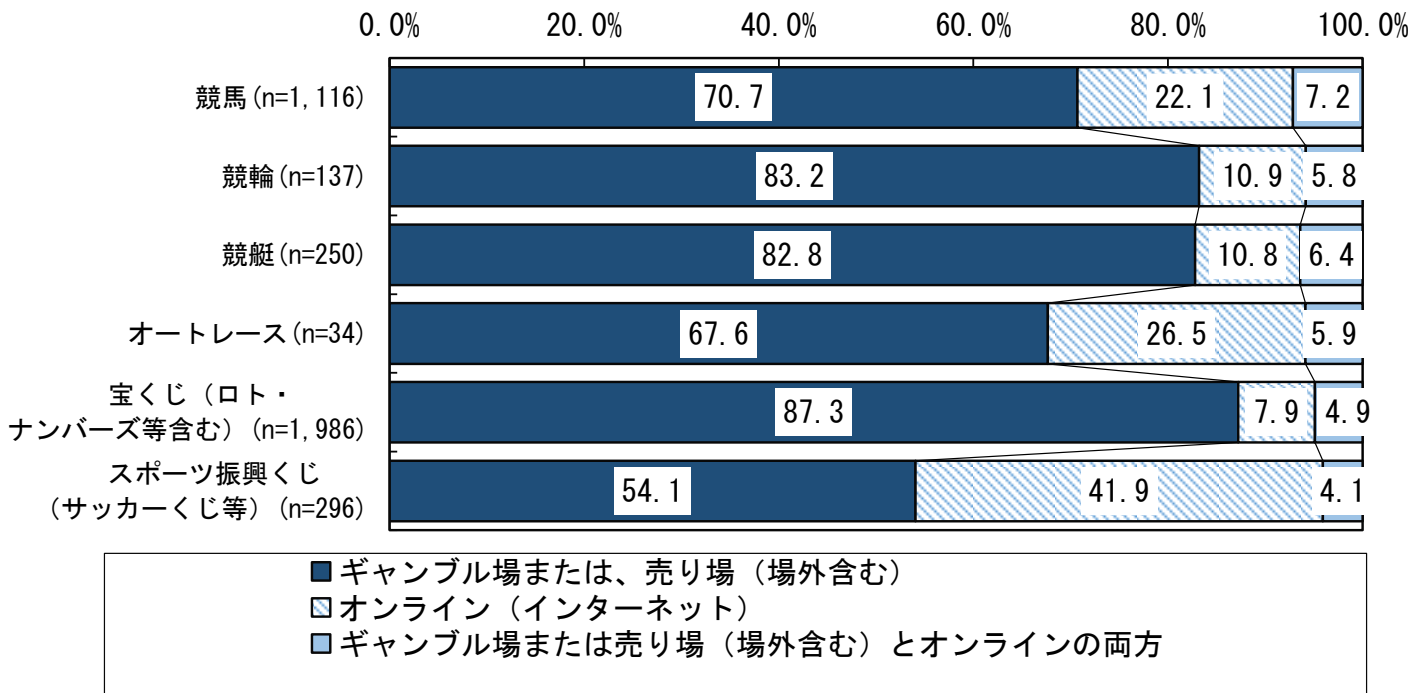
【問13】 【問11】で競馬、競輪、競艇、オートレース、宝くじ、スポーツ振興くじのいずれかに○をつけた人にお尋ねします。主にどこで券を購入しますか。ギャンブル等ごとに、あてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

いずれの競技でも「ギャンブル場／場外売り場」で券を購入する者が最も多く、競馬、オートレースで7割前後、競輪、競艇、宝くじで8割強であった。「オンライン(インターネット)」は、スポーツ振興くじで約4割、競馬、オートレースで2割台、競輪、競艇で約1割となっている。「ギャンブル場／場外とオンラインの両方」は、いずれの競技でも1割未満であった。(図表15-1・図表15-2)

図表15-1 公営競技等の主な券の購入方法

	ギャンブル場／ 場外売り場	オンライン (インターネット)	ギャンブル場／場外と オンラインの両方	合計
競馬	789 (70.7%)	247 (22.1%)	80 (7.2%)	1,116
競輪	114 (83.2%)	15 (10.9%)	8 (5.8%)	137
競艇	207 (82.8%)	27 (10.8%)	16 (6.4%)	250
オートレース	23 (67.6%)	9 (26.5%)	2 (5.9%)	34
宝くじ(ロト・ナンバーズ等含む)	1,733 (87.3%)	156 (7.9%)	97 (4.9%)	1,986
スポーツ振興くじ(サッカーくじ等)	160 (54.1%)	124 (41.9%)	12 (4.1%)	296

図表15-2 公営競技等の主な券の購入方法



※問13に無回答は集計から除外: 競馬(n=100)、競輪(n=21)、競艇(n=41)、オートレース(n=8)、宝くじ(ロト・ナンバーズ等含む)(n=192)、スポーツ振興くじ(サッカーくじ等)(n=33)

(4)ギャンブル等に費やすお金

【過去1年間で最もお金を使ったギャンブル等の種類】

【問16】 過去1年間で、最もお金を使った(つぎ込んだ)ギャンブル等はどれですか。(単一選択)

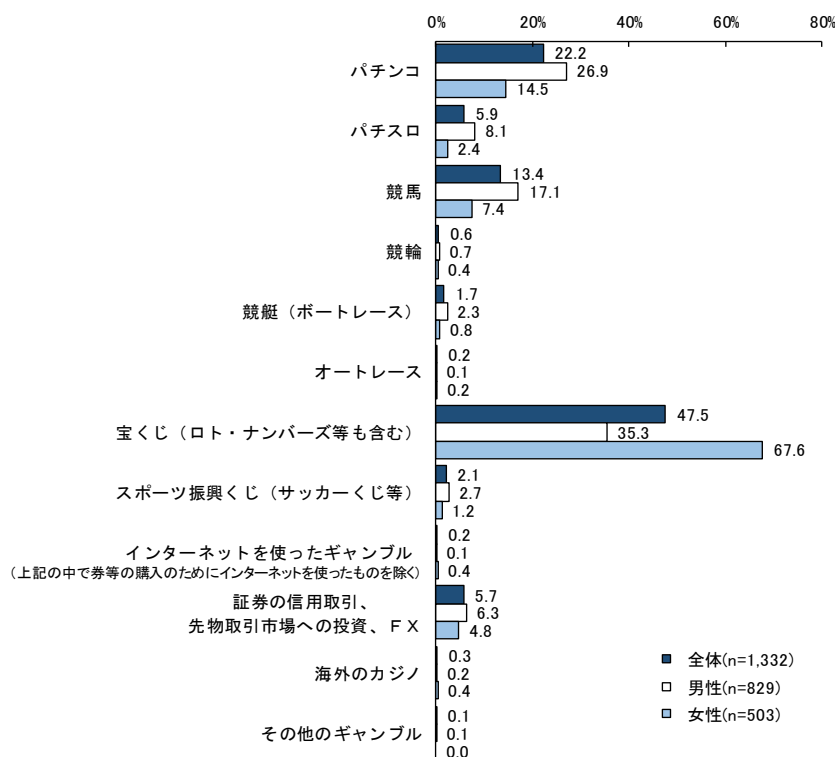
過去1年間にギャンブル等の経験がある者の中で、最もお金を使ったギャンブル等の種類は、宝くじ(47.5%)が最も多く、次いでパチンコ(22.2%)であった。(図表16-1・図表16-2)

図表16-1 最もお金を使ったギャンブル等の種類

ギャンブルの種類	男性	女性	全体
パチンコ	223 (26.9%)	73 (14.5%)	296 (22.2%)
パチスロ	67 (8.1%)	12 (2.4%)	79 (5.9%)
競馬	142 (17.1%)	37 (7.4%)	179 (13.4%)
競輪	6 (0.7%)	2 (0.4%)	8 (0.6%)
競艇(ボートレース)	19 (2.3%)	4 (0.8%)	23 (1.7%)
オートレース	1 (0.1%)	1 (0.2%)	2 (0.2%)
宝くじ(ロト・ナンバーズ等も含む)	293 (35.3%)	340 (67.6%)	633 (47.5%)
スポーツ振興くじ(サッカーくじ等)	22 (2.7%)	6 (1.2%)	28 (2.1%)
インターネットを使ったギャンブル (上記の中で券等の購入のために インターネットを使ったものを除く)	1 (0.1%)	2 (0.4%)	3 (0.2%)
証券の信用取引、 先物取引市場への投資、FX	52 (6.3%)	24 (4.8%)	76 (5.7%)
海外のカジノ	2 (0.2%)	2 (0.4%)	4 (0.3%)
その他のギャンブル	1 (0.1%)	0 (0.0%)	1 (0.1%)
計	829 (100.0%)	503 (100.0%)	1,332 (100.0%)

※問16集計から除外:条件分岐(問11でいずれかのギャンブル等を選択していないもの)、無回答(n=225)、選択肢13「過去1年間はギャンブル等を全くしていない」(n=1,122)

図表16-2 最もお金を使ったギャンブル等の種類



※問16集計から除外:条件分岐(問11でいずれかのギャンブル等を選択していないもの)、無回答(n=225)、選択肢13「過去1年間はギャンブル等を全くしていない」(n=1,122)

【過去1年間でギャンブル等に使った金額】

【問17】 過去1年間、1か月あたりギャンブル等にどのくらいお金をかけていますか。

(勝ったお金は含めずに回答)

1か月あたりギャンブル等に使用する金額は、0円の回答を含めない場合、男女とも1万円以上～5万円未満が最も多かった(男性18.5%、女性9.1%)。月に1円以上ギャンブル等にかかる場合の金額の中央値は男性が10,005円/月、女性が5,000円/月、平均値は男性が246,950円/月、女性が100,481円/月であった。(図表17-1、図表17-2)

図表17-1 ギャンブル等にかけている金額(1か月あたり、勝ったお金は含めず)

金額	男性	女性	全体
0円	653 (49.4%)	809 (67.4%)	1,462 (58.0%)
1円以上2千円未満	66 (5.0%)	92 (7.7%)	158 (6.3%)
2千円以上5千円未満	97 (7.3%)	103 (8.6%)	200 (7.9%)
5千円以上1万円未満	82 (6.2%)	51 (4.3%)	133 (5.3%)
1万円以上5万円未満	244 (18.5%)	109 (9.1%)	353 (14.0%)
5万円以上10万円未満	55 (4.2%)	15 (1.3%)	70 (2.8%)
10万円以上50万円未満	82 (6.2%)	15 (1.3%)	97 (3.8%)
50万円以上	42 (3.2%)	6 (0.5%)	48 (1.9%)
計	1,321 (100.0%)	1,200 (100.0%)	2,521 (100.0%)

図表17-2 ギャンブル等にかけている金額

単位: 1か月あたりの金額(円)

金額	男性	女性	全体
最小値	30	20	20
第一四分位数	5,000	2,000	3,000
中央値	10,005	5,000	10,000
第三四分位数	50,000	10,000	30,000
最大値	70,000,000	10,000,000	70,000,000
平均値	246,950	100,481	192,871

※1か月に1円以上かける回答者での集計

※問17集計から除外: 条件分岐(問11でいずれかのギャンブル等を選択していないもの)、設問間矛盾(問16で過去1年間ギャンブル等をしていないと回答しているのに問17で1円以上と回答、問16でいずれかのギャンブル等の種類を回答しているのに問17に0円と回答)、無回答(n=158)

(5)ギャンブル等の開始年齢

【問14】初めてギャンブル等をしたのは何歳の時でしたか。

全体の57.1%(男性55.9%、女性58.6%)が20歳代と回答した。20歳未満の年齢を回答したのは、女性の15.4%に対し、男性は37.7%であり、男性の方が低い年齢でギャンブル等を経験している割合が高かった。(図表18-1)

図表18-1 初めてギャンブル等をするようになった年齢

年齢区分	男性	女性	全体
0～9歳	4 (0.3%)	10 (0.9%)	14 (0.6%)
10～19歳	500 (37.4%)	166 (14.5%)	666 (26.8%)
20～29歳	748 (55.9%)	670 (58.6%)	1,418 (57.1%)
30～39歳	55 (4.1%)	167 (14.6%)	222 (8.9%)
40～49歳	14 (1.0%)	74 (6.5%)	88 (3.5%)
50～59歳	9 (0.7%)	35 (3.1%)	44 (1.8%)
60～69歳	8 (0.6%)	18 (1.6%)	26 (1.0%)
70～79歳	0 (0.0%)	3 (0.3%)	3 (0.1%)
80歳以上	0 (0.0%)	1 (0.1%)	1 (0.0%)
計	1,338 (100.0%)	1,144 (100.0%)	2,482 (100.0%)

※問14 集計から除外:条件分岐(問11でいずれかのギャンブル等を選択していないもの)、無回答(n=197)

初めてギャンブル等をするようになった年齢の中で、特に人数が多かった10～19歳、20～29歳について、各年齢の人数について詳細を見ると、男女とも、20歳が最多(男性34.2%、女性24.6%)で、次いで男性では18歳(24.9%)、女性では25歳(10.2%)が多かった。(図表18-2)

図表18-2 初めてギャンブル等をするようになった年齢(10歳代、20歳代の詳細)

	男性	女性	全体
10歳	4 (0.3%)	10 (0.9%)	14 (0.6%)
11歳	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
12歳	3 (0.2%)	3 (0.3%)	6 (0.2%)
13歳	3 (0.2%)	0 (0.0%)	3 (0.1%)
14歳	6 (0.4%)	2 (0.2%)	8 (0.3%)
15歳	14 (1.0%)	4 (0.3%)	18 (0.7%)
16歳	40 (3.0%)	13 (1.1%)	53 (2.1%)
17歳	27 (2.0%)	6 (0.5%)	33 (1.3%)
18歳	333 (24.9%)	95 (8.3%)	428 (17.2%)
19歳	70 (5.2%)	33 (2.9%)	103 (4.1%)
20歳	458 (34.2%)	281 (24.6%)	739 (29.8%)
21歳	57 (4.3%)	56 (4.9%)	113 (4.6%)
22歳	69 (5.2%)	69 (6.0%)	138 (5.6%)
23歳	35 (2.6%)	55 (4.8%)	90 (3.6%)
24歳	23 (1.7%)	39 (3.4%)	62 (2.5%)
25歳	70 (5.2%)	117 (10.2%)	187 (7.5%)
26歳	16 (1.2%)	17 (1.5%)	33 (1.3%)
27歳	5 (0.4%)	15 (1.3%)	20 (0.8%)
28歳	11 (0.8%)	9 (0.8%)	20 (0.8%)
29歳	4 (0.3%)	12 (1.0%)	16 (0.6%)
計	1,248 (93.3%)	836 (73.1%)	2,084 (84.0%)

※(%)は、全年代の人数(男性1,338名、女性1,144名、全体2,482名)に対する割合

【問15】あなたが少なくとも月1回以上の頻度で、習慣的にギャンブル等をするようになったのは何歳でしたか。

【問11】で、いずれかのギャンブル等を経験したことがある(生涯ギャンブル等経験あり)と回答した者を対象に、習慣的なギャンブル等を開始した年齢を尋ねた。男性・女性ともに20歳代に習慣的なギャンブル等を開始した割合が最も高かった(男性38.1%、女性8.9%)。(図表19-1)

図表19-1 習慣的にギャンブル等をするようになった年齢

年齢区分	男性	女性	全体
0～9歳	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
10～19歳	172 (16.4%)	18 (2.5%)	190 (10.8%)
20～29歳	399 (38.1%)	64 (8.9%)	463 (26.2%)
30～39歳	74 (7.1%)	36 (5.0%)	110 (6.2%)
40～49歳	53 (5.1%)	27 (3.8%)	80 (4.5%)
50～59歳	20 (1.9%)	19 (2.6%)	39 (2.2%)
60～69歳	12 (1.1%)	12 (1.7%)	24 (1.4%)
70～79歳	3 (0.3%)	2 (0.3%)	5 (0.3%)
80歳以上	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
計	733 (70.0%)	178 (24.8%)	911 (51.6%)
※習慣的にギャンブル等をしたことはない	314 (30.0%)	541 (75.2%)	855 (48.4%)

※問15 集計から除外:条件分岐(問11でいずれかのギャンブル等を選択していないもの)、無回答(n=58)

※(%)は、「習慣的にギャンブル等をしたことはない」を含めた人数(男性1,047名、女性719名、全体1,766名)に対する割合

習慣的にギャンブル等をするようになった年齢の中で、特に人数が多かった10～19歳、20～29歳について、各年齢の人数について詳細を見ると、20歳が最多(全体9.2%)で、18歳が次いで多かった(全体5.2%)。(図表19-2)

図表19-2 習慣的にギャンブル等をするようになった年齢(10歳代・20歳代の詳細)

	男性	女性	全体
10歳	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
11歳	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
12歳	1 (0.1%)	0 (0.0%)	1 (0.0%)
13歳	1 (0.1%)	0 (0.0%)	1 (0.0%)
14歳	1 (0.1%)	0 (0.0%)	1 (0.0%)
15歳	3 (0.2%)	0 (0.0%)	3 (0.1%)
16歳	9 (0.7%)	2 (0.2%)	11 (0.4%)
17歳	6 (0.4%)	1 (0.1%)	7 (0.3%)
18歳	121 (9.0%)	7 (0.6%)	128 (5.2%)
19歳	30 (2.2%)	8 (0.7%)	38 (1.5%)
20歳	199 (14.9%)	30 (2.6%)	229 (9.2%)
21歳	30 (2.2%)	5 (0.4%)	35 (1.4%)
22歳	48 (3.6%)	6 (0.5%)	54 (2.2%)
23歳	23 (1.7%)	8 (0.7%)	31 (1.2%)
24歳	16 (1.2%)	4 (0.3%)	20 (0.8%)
25歳	49 (3.7%)	3 (0.3%)	52 (2.1%)
26歳	13 (1.0%)	3 (0.3%)	16 (0.6%)
27歳	7 (0.5%)	3 (0.3%)	10 (0.4%)
28歳	13 (1.0%)	1 (0.1%)	14 (0.6%)
29歳	1 (0.1%)	1 (0.1%)	2 (0.1%)
計	571 (42.7%)	82 (7.2%)	653 (26.3%)

※(%)は、「習慣的にギャンブル等をしたことはない」を含めた人数(男性1,047名、女性719名、全体1,766名)に対する割合

(6)ギャンブル等に関する相談先

【問33】 あなたはこれまでに、あなた自身のギャンブル等のことで、だれか(どこか)に相談したことはありますか。(複数選択)

生涯ギャンブル等経験がある者のうち、自身のギャンブル等問題について、相談経験をたずねたところ、「だれ(どこ)にも相談したことはない」と回答したのは全体の95.1%であった。相談先として最も多かったのは、家族や友人で4.2%であった。(図表20)

図表20 ギャンブル等での相談経験の有無と相談先

相談先	男性	女性	全体
家族や友人	73 (5.8%)	25 (2.3%)	98 (4.2%)
学校の先生や学生相談窓口	0 (0.0%)	1 (0.1%)	1 (0.0%)
公的な相談機関	2 (0.2%)	2 (0.2%)	4 (0.2%)
医療機関	5 (0.4%)	2 (0.2%)	7 (0.3%)
法律の専門家(弁護士、司法書士等)	5 (0.4%)	1 (0.1%)	6 (0.3%)
民間の相談機関 (無料電話相談、回復施設)	2 (0.2%)	0 (0.0%)	2 (0.1%)
自助グループ	1 (0.1%)	0 (0.0%)	1 (0.0%)
その他	4 (0.3%)	5 (0.5%)	9 (0.4%)
だれ(どこ)にも相談したことはない	1,181 (93.4%)	1,063 (97.1%)	2,244 (95.1%)
全体	1,264 (100.0%)	1,095 (100.0%)	2,359 (100.0%)

※問33 集計から除外:条件分岐(問11でいずれかのギャンブル等を選択していないもの)、無回答(n=320)

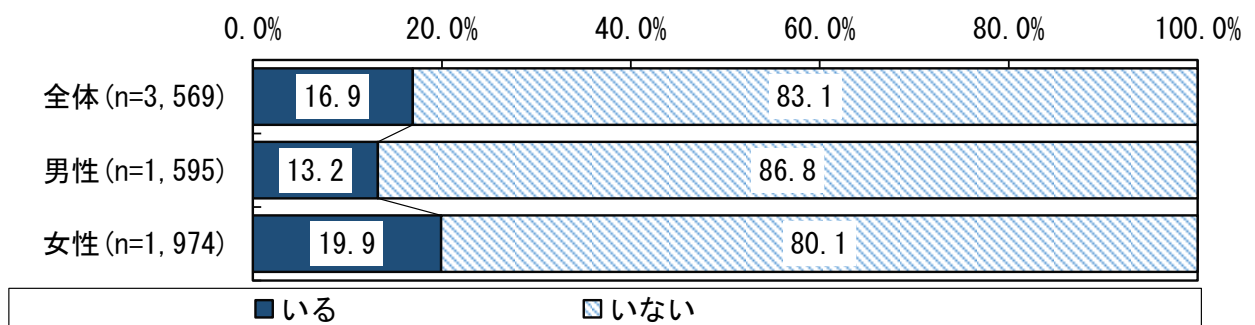
(7) 家族や重要な他者のギャンブル等問題とその影響

【家族や重要な他者のギャンブル等問題】

【問34】 次あげる人の中に、ギャンブル等の問題がある(あった)人はいますか。今はなくとも過去にギャンブル等の問題があった人についても○をつけてください。(複数選択)

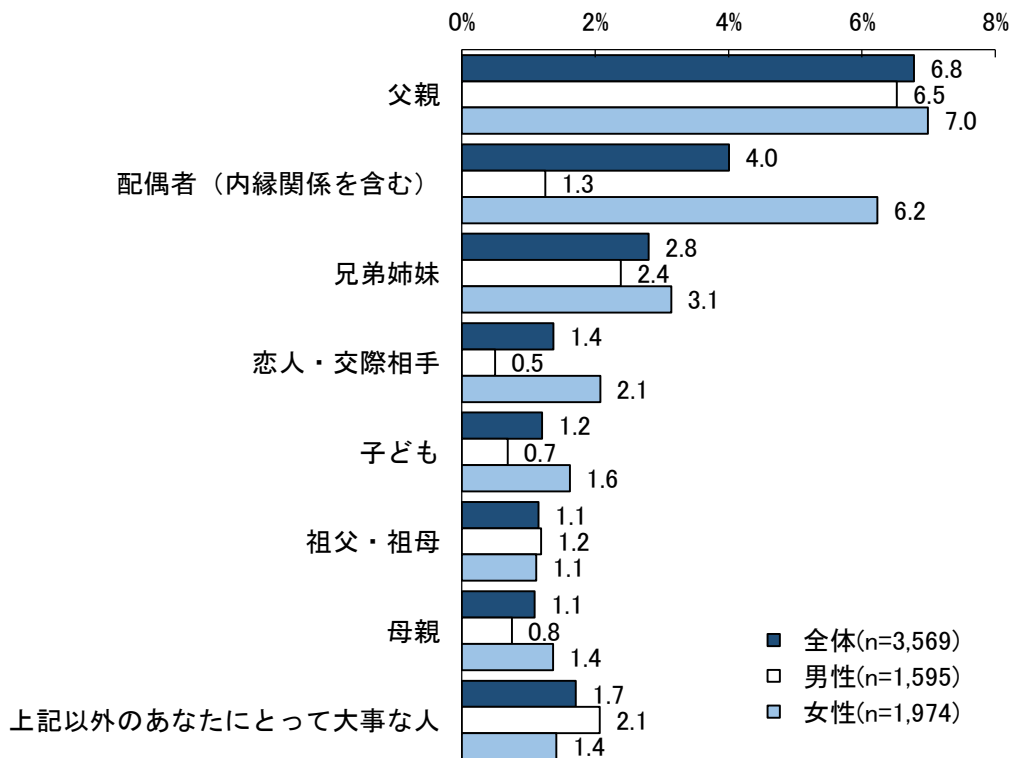
家族や重要な他者の中に、ギャンブル等の問題がある(あった)と回答したのは、全体の16.9%(男性:13.2%、女性19.9%)であった(図表21)。ギャンブル等の問題がある(あった)家族や重要な他者は、男性では「父親」6.5%、「兄弟姉妹」2.4%、「上記以外の大事な人」2.1%の順で割合が高かった。女性では、「父親」7.0%、「配偶者」6.2%、「兄弟姉妹」3.1%の順で割合が高かった。(図表22)

図表21 ギャンブル等の問題がある(あった)人の有無



※「いない」以外のいずれかにチェックが入った人を「いる」として集計
 ※問34 集計から除外:無回答(n=216)

図表22 ギャンブル等の問題がある(あった)人



※「いない」(83.1%)は掲載せず
 ※問34 集計から除外:無回答(n=216)

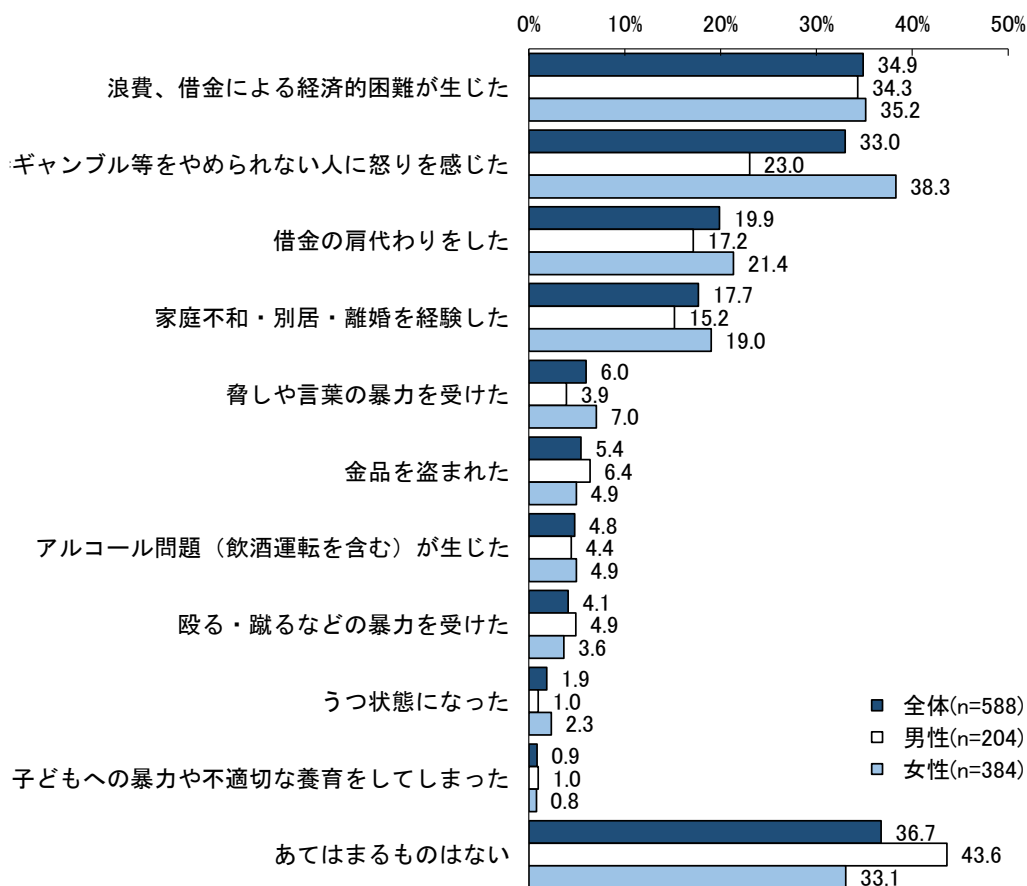
【家族や重要な他者のギャンブル等問題から受けた影響】

【問35】 あなたは、【問34】で答えた人のギャンブル等の問題から、次のような影響を受けたことがありますか。影響を受けたことについて、あてはまる番号に○をつけてください。(複数選択)

家族や重要な他者にギャンブル等問題がある(あった)と回答した者において、受けた影響として回答が多かったものは、「あてはまるものがない」を除くと、「浪費、借金による経済的困難が生じた」34.9%、「ギャンブル等をやめられない人に怒りを感じた」33.0%であった。受けた影響について男女を比較すると、「ギャンブル等をやめられない人に怒りを感じた」は男性より女性の方が回答した割合が有意に高く、女性では最多であった。

($\chi^2(1)=14.000, p<.01$) (図表23)

図表23 家族や重要な他者のギャンブル等問題から受けた影響



※問34で「いない」、「答えたくない」、「無回答」とした(n=3,181)、および問35における無回答(n=16)を除く、合計n=588を集計対象とした。

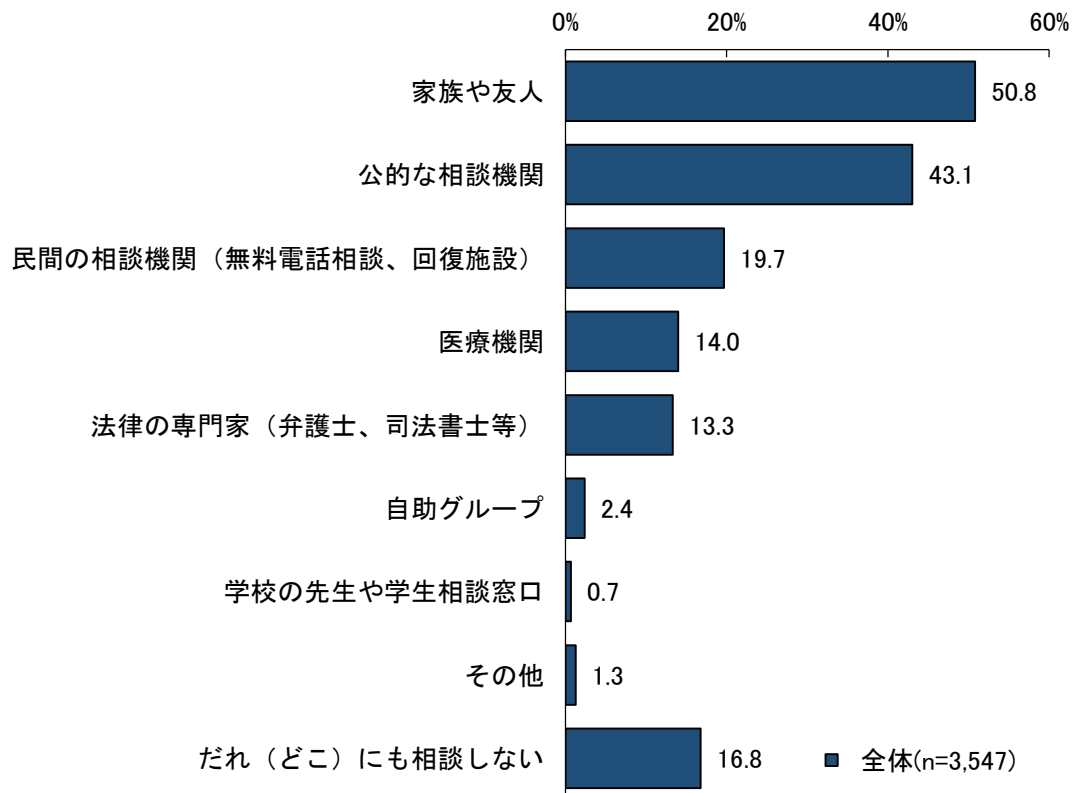
※ χ^2 検定による男女比較で有意差があった項目 *p < .01

【家族や重要な他者のギャンブル等問題と相談先】

【問36】 もし、あなた自身や、あなたの重要な関係者(家族や友人、同僚、交際相手など)がギャンブル等のことで困りごとを抱えたら、だれ(どこ)に相談しますか。あてはまる番号をすべて選んで○をつけてください。(複数選択)

ギャンブル等のことで困った時の相談先としては、「家族や友人」を選択した回答者が最も多く(50.8%)、次いで「公的な相談機関」が43.1%であった。一方、全体の16.8%は「だれ(どこ)にも相談しない」と回答した。(図表24)

図表24 家族や重要な他者のギャンブル等問題と相談先



※問36 集計から除外:無回答(n=238)

7.3 「ギャンブル等依存が疑われる者」の割合の推計

ギャンブル障害のスクリーニングテストとしてSOGS、PGSI(2調査方法参照)の2種類の尺度を用いて、大阪府における「ギャンブル等依存が疑われる者」の割合を推計した。なお本調査では、「過去1年間にギャンブル等経験がある者」を対象に過去1年間のギャンブルについてスクリーニングテストの得点を集計した。したがって、本調査では過去1年間ににおけるギャンブル等依存が疑われる者が、どの程度の割合存在しているのかを示す推計値を算出した。

(1) SOGS(South Oaks Gambling Screen)による割合の推計

① SOGS 得点の集計方法

本調査においては【問18～問31】がSOGSの得点項目に該当する。SOGS得点の集計サンプルの概要を図表25に示す。

まず、「ギャンブル等依存が疑われる者」の推計に際し、調査の回答者をギャンブル等経験の有無からグループに分けて検証した。「過去1年間のギャンブル等経験あり」と回答した1,150サンプルのうち、SOGS尺度の回答に不備があった102サンプルを除く1,048サンプルを対象に、SOGS得点を集計した。また、「過去1年間のギャンブル等経験なし」「生涯ギャンブル経験なし」の者のSOGS得点は、0点として取り扱った。

図表25 SOGS 得点集計サンプルの概要

SOGS得点集計対象者の内訳	サンプル数	
過去1年ギャンブル等経験ありのうち SOGS該当設問に完答	1,048	→SOGS得点集計の対象
過去1年ギャンブル等経験なし (生涯ギャンブル等経験のない者も含む)	2,635	→SOGS得点は0点として処理
割合推計に用いたサンプル数の合計	3,683	→「ギャンブル等依存が疑われる者」の 割合推計の分母

※過去1年間ギャンブル等経験ありの者のうち、SOGS尺度(問18～問31)の回答に不備がある者(n=102)は、集計から除外

② SOGS 得点によるギャンブル等依存が疑われる者の人数と割合

本調査では、SOGs得点5点以上の回答者を「ギャンブル等依存が疑われる者」、3点～4点の回答者を「ギャンブル等依存のリスクがある者」とした。その結果、SOGs得点5点以上に該当した者は64名（男性53名、女性11名）、SOGs得点3点～4点に該当した者は53名（男性45名、女性8名）であった。（図表26）

年齢調整後⁴のSOGs得点分布において、「ギャンブル等依存が疑われる者（SOGs5点以上）」の割合は、全体で1.9%（95%信頼区間⁵:1.5～2.3）で、男性が3.4%（95%信頼区間:2.5～4.3）、女性が0.5%（95%信頼区間:0.2～0.8）であった。「ギャンブル等依存のリスクがある者（SOGs3点～4点）」の割合は、全体で1.5%（95%信頼区間:1.1～1.9）で、男性が2.9%（95%信頼区間:2.1～3.7）、女性が0.4%（95%信頼区間:0.1～0.7）であった。（図表27）

図表26 年齢調整前のSOGs 得点分布

			男性	女性	全体
SOGs 得点	5点未満	0～2点	1,525 (94.0%)	2,041 (99.1%)	3,566 (96.8%)
		3～4点	45 (2.8%)	8 (0.4%)	53 (1.4%)
	5点以上		53 (3.3%)	11 (0.5%)	64 (1.7%)
	全体		1,623 (100.0%)	2,060 (100.0%)	3,683 (100.0%)

図表27 年齢調整後のSOGs 得点分布

			男性	女性	全体
SOGs 得点	3点 未満	人数	1,632	1,936	3,568
		割合	93.7%	99.1%	96.6%
	3点～ 4点	人数	50	7	57
		割合	2.9%(2.1～3.7)	0.4%(0.1～0.7)	1.5%(1.1～1.9)
	5点 以上	人数	59	10	69
		割合(95%信頼区間)	3.4%(2.5～4.3)	0.5%(0.2～0.8)	1.9%(1.5～2.3)
	全体	人数	1,741	1,953	3,694
		割合	100.0%	100.0%	100.0%

⁴ 年齢調整：大阪府の人口における年齢構成と、本調査の回答者における年齢構成の差異の影響を取り除くため、令和2年10月1日現在人口を基準人口として補正し、年齢調整後の割合を算出した。年齢調整の詳細については、本報告書「4年齢調整方法」を参照。

⁵ 95%信頼区間：同じ調査を100回実施した場合、95回はその区間内に真の値が含まれることを意味する。

(2)PGSI(The Problem Gambling Severity Index)による割合の推計

① PGSI 得点の集計方法

本調査における【問32】がPGSI尺度に該当する。PGSI得点の集計サンプルの概要を図表28に示す。

図表28 PGSI 得点集計サンプルの概要

PGSI得点集計対象者の内訳	サンプル数	
過去1年ギャンブル等経験ありのうちPGSI該当設問に完答	1,064	→PGSI得点集計の対象
過去1年ギャンブル等経験なし(生涯ギャンブル経験のない者も含む)	2,635	→PGSI得点は0点として処理
割合推計に用いたサンプル数の合計	3,699	→「ギャンブル等依存が疑われる者」の割合推計の分母

※過去1年間ギャンブル等経験ありの者のうち、PGSI尺度(問32)の回答に不備がある者(n=86)は、集計から除外

② PGSI 得点によるギャンブル等依存が疑われる者の人数と割合

本調査では、PGSI得点8点以上の回答者を「ギャンブル等依存が疑われる者」とした。その結果、PGSI得点8点以上に該当した者は37名(男性31名、女性6名)であった。(図表29)

年齢調整後のPGSI得点分布において、ギャンブル等依存が疑われる者(8点以上)の割合は全体で1.1%(95%信頼区間:0.8~1.4)、男性2.0%(95%信頼区間:1.3~2.7)、女性0.2%(95%信頼区間:0.0~0.4)であった。(図表30)

図表29 年齢調整前のPGSI 得点分布

			男性	女性	全体
PGSI 得点	8点未満	0点	1,425 (87.5%)	2,017 (97.4%)	3,442 (93.1%)
		1~2点	96 (5.9%)	23 (1.1%)	119 (3.2%)
		3~7点	76 (4.7%)	25 (1.2%)	101 (2.7%)
	8点以上		31 (1.9%)	6 (0.3%)	37 (1.0%)
	全体		1,628 (100.0%)	2,071 (100.0%)	3,699 (100.0%)

図表30 PGSI 集計結果(年齢調整後)

			男性	女性	全体
PGSI 得点	8点 未満	人数	1,709	1,957	3,666
		割合	98.0%	99.8%	98.9%
	8点 以上	人数	35	4	39
		割合(95%信頼区間)	2.0%(1.3~2.7)	0.2%(0.0~0.4)	1.1%(0.8~1.4)
	全体	人数	1,744	1,961	3,705
		割合	100.0%	100.0%	100.0%

※集計から除外:問32の9項目に1つでも無回答が含まれる回答(n=86)は採点対象外とした。

7.4 「ギャンブル等依存が疑われる者」におけるギャンブル行動

「ギャンブル等依存が疑われる者」(SOGs得点5点以上)におけるギャンブル等行動(経験したギャンブル等の種類、最もお金をつぎ込んだギャンブル等)について集計した。

(1) SOGS 5点以上-過去1年間で経験したギャンブル等の種類

【問12】 【問11】で○をつけたギャンブル等について、過去1年間はどのくらいの頻度で行っていましたか。

(各項目単一選択)

【過去1年間で経験したギャンブル等の種類】

SOGs得点5点以上の者における過去1年間で経験したギャンブル等の種類は、全体でパチンコ(60.9%)が最も高く、続いて、パチスロ(50.0%)、宝くじ(ロト・ナンバーズ等も含む)(40.6%)、競馬(37.5%)の順で割合が高かった。

(図表34)

図表34 SOGS 5点以上-過去1年間で経験したギャンブル等の種類

ギャンブル等の種類	全体 (n=64)
パチンコ	39 (60.9%)
パチスロ	32 (50.0%)
競馬	24 (37.5%)
競輪	5 (7.8%)
競艇(ボートレース)	12 (18.8%)
オートレース	2 (3.1%)
宝くじ(ロト・ナンバーズ等も含む)	26 (40.6%)
スポーツ振興くじ(サッカーくじ等)	9 (14.1%)
インターネットを使ったギャンブル (上記の中で券等の購入のためにインターネットを 使ったものを除く)	5 (7.8%)
証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX	7 (10.9%)
海外のカジノ	2 (3.1%)
その他のギャンブル	1 (1.6%)

※集計から除外: 設問内矛盾(1項目内で2つ以上選択)、無回答、選択肢1「過去1年間はギャンブル等を全くしていない」

【過去1年間の頻度(SOGs 5点以上(n=64)における割合)】

SOGs得点5点以上の者において、過去1年間で実施したギャンブル等の種類のうち、「週1回以上」の頻度で実施されていた割合が最も高いのは、パチンコ(31.3%)であった。続いて、パチスロ(26.6%)、宝くじ(ロト・ナンバーズ等も含む)(10.9%)で割合が高かった。(図表35)

図表35 SOGS 5点以上-過去1年間でギャンブル等をした頻度

単位: 人数 (n=64における割合)

ギャンブル等の種類	SOGs 5点以上(n=64)における頻度		
	週1回未満	週1回以上	合計
パチンコ	19 (29.7%)	20 (31.3%)	39 (60.9%)
パチスロ	15 (23.4%)	17 (26.6%)	32 (50.0%)
競馬	21 (32.8%)	3 (4.7%)	24 (37.5%)
競輪	2 (3.1%)	3 (4.7%)	5 (7.8%)
競艇(ボートレース)	6 (9.4%)	6 (9.4%)	12 (18.8%)
オートレース	1 (1.6%)	1 (1.6%)	2 (3.1%)
宝くじ(ロト・ナンバーズ等も含む)	19 (29.7%)	7 (10.9%)	26 (40.6%)
スポーツ振興くじ(サッカーくじ等)	7 (10.9%)	2 (3.1%)	9 (14.1%)
インターネットを使ったギャンブル (上記の中で券等の購入のために インターネットを使ったものを除く)	2 (3.1%)	3 (4.7%)	5 (7.8%)
証券の信用取引、 先物取引市場への投資、FX	3 (4.7%)	4 (6.3%)	7 (10.9%)
海外のカジノ	1 (1.6%)	1 (1.6%)	2 (3.1%)
その他のギャンブル	1 (1.6%)	0 (0.0%)	1 (1.6%)

(2) 公営競技等: 主な券の購入方法(SOGs 5点以上と5点未満の比較)

【問13】 【問11】で競馬、競輪、競艇、オートレース、宝くじ、スポーツ振興くじのいずれかに○をつけた人にお尋ねします。

主にどこで券を購入しますか。ギャンブル等ごとに、あてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

【問11】で競馬、競輪、競艇、オートレースの経験が過去1年間に「週1回未満」または「週1回以上」と回答し、かつ、SOGsの該当質問に完答者(SOGs得点を集計した者)を対象に集計した。各公営競技等の券の購入方法について、SOGs 5点以上と5点未満で比較したところ、ギャンブル等依存が疑われる者の群では「競馬」、「オートレース」「宝くじ(ロト・ナンバーズ等含む)」でオンライン(インターネット)の割合が有意に高かった。(図表36)

図表36 公営競技等: 主な券の購入方法(SOGs 5点以上5点未満の比較)

公営競技	SOGs得点	ギャンブル場/ 場外売り場	オンライン (インターネット)	ギャンブル場/ 場外とオンライン の両方	合計
競馬 a	5点未満	751 (71.6%)	225 (21.4%)	73 (7.0%)	1,049 (100.0%)
	5点以上	19 (50.0%)	14 (36.8%)	5 (13.2%)	38 (100.0%)
競輪 b	5点未満	102 (85.0%)	12 (10.0%)	6 (5.0%)	120 (100.0%)
	5点以上	6 (60.0%)	3 (30.0%)	1 (10.0%)	10 (100.0%)
競艇 c	5点未満	185 (84.1%)	21 (9.5%)	14 (6.4%)	220 (100.0%)
	5点以上	14 (66.7%)	5 (23.8%)	2 (9.5%)	21 (100.0%)
オートレース d	5点未満	21 (75.0%)	5 (17.9%)	2 (7.1%)	28 (100.0%)
	5点以上	1 (20.0%)	4 (80.0%)	0 (0.0%)	5 (100.0%)
宝くじ(ロト・ ナンバーズ等含む) e	5点未満	1,646 (87.7%)	144 (7.7%)	87 (4.6%)	1,877 (100.0%)
	5点以上	32 (74.4%)	8 (18.6%)	3 (7.0%)	43 (100.0%)
スポーツ振興くじ (サッカーくじ等) f	5点未満	147 (53.5%)	117 (42.5%)	11 (4.0%)	275 (100.0%)
	5点以上	8 (53.3%)	7 (46.7%)	0 (0.0%)	15 (100.0%)

※ χ^2 検定の結果 a: $\chi^2(1) = 8.329, p < .05$; d: $\chi^2(1) = 8.289, p < .05$; e: $\chi^2(1) = 7.686, p < .05$

(3) SOGS 5 点以上-過去1年間で1か月あたりにギャンブル等に費やす金額

【問17】 過去1年間、1か月あたりギャンブル等にどのくらいお金をかけていますか。

(勝ったお金は含めずに回答)

SOGS得点5点以上の者において、1か月あたりギャンブル等に使用する金額は、10万円以上～50万円未満が最も多く、次いで、1万円以上～5万円未満が多くなった。月に1円以上ギャンブル等にかける場合の金額の中央値は80,000円/月、平均値は441,906円/月であった。(図表37-1、図表37-2)

図表37-1 SOGS 5点以上-ギャンブル等にかけている金額(1か月あたり、勝ったお金は含めず)

金額	全体
0円	3 (4.9%)
1円以上2千円未満	0 (0.0%)
2千円以上5千円未満	0 (0.0%)
5千円以上1万円未満	3 (4.9%)
1万円以上5万円未満	17 (27.9%)
5万円以上10万円未満	10 (16.4%)
10万円以上50万円未満	20 (32.8%)
50万円以上	8 (13.1%)
計	61 (100.0%)

図表37-2 SOGS 5点以上-ギャンブル等にかけている金額

単位: 1か月あたりの金額(円)

金額	全体
最小値	5,000
第一四分位数	30,000
中央値	80,000
第三四分位数	200,015
最大値	8,000,000
平均値	441,906

※問17集計から除外: 矛盾・無回答(n=3)

(4) SOGS 5点以上-過去1年間最もお金をつぎこんだギャンブル等の種類

【問16】 過去1年間で、最もお金を使った(つぎ込んだ)ギャンブル等はどれですか。(単一選択)

SOGS得点5点以上の者において、最もお金を使ったギャンブル等の種類は、全体でパチンコ(38.7%)が最も多く、次いで、パチスロ(25.8%)が多かった。(図表38)

図表38 SOGS 5点以上-最もお金を使ったギャンブル等の種類

ギャンブル等の種類	全体
パチンコ	24 (38.7%)
パチスロ	16 (25.8%)
競馬	8 (12.9%)
競輪	2 (3.2%)
競艇(ボートレース)	3 (4.8%)
オートレース	0 (0.0%)
宝くじ(ロト・ナンバーズ等も含む)	2 (3.2%)
スポーツ振興くじ(サッカーくじ等)	0 (0.0%)
インターネットを使ったギャンブル (上記の中で券等の購入のためにインターネットを 使ったものを除く)	1 (1.6%)
証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX	5 (8.1%)
海外のカジノ	1 (1.6%)
その他のギャンブル	0 (0.0%)
計	62 (100.0%)

7.5 「ギャンブル等依存が疑われる者」におけるギャンブル等関連問題

「ギャンブル等依存が疑われる者」と「ギャンブル等関連問題」との関連を検証した。

(1)ギャンブル等問題と抑うつ、不安との関連

ギャンブル等問題と「抑うつ・不安」との関連を検証するため、抑うつ・不安のスクリーニング尺度(K6)を用いた。

(図表39)

【問39】 過去30日の間に、どれくらいの頻度で以下のことがありましたか。(それぞれ単一選択)

図表39 < K6 得点の評価方法 >

0～4点	問題なし
5～9点	何らかのうつ・不安の問題がある可能性がある
10～12点	うつ・不安障害が疑われる
13点以上	重度のうつ・不安障害が疑われる

【全体の傾向:抑うつ・不安】

過去1か月の間に「抑うつ・不安」の問題がある者(K6得点5点以上)は、全体の27.6%であった。男女別でみるとK6得点5点以上の割合は、男性(24.9%)より女性(29.8%)の方が高かった。 $(\chi^2(3)=11.515, p<.01)$

(図表40)

図表40 K6 得点の分布

		男性	女性	全体
K6得点区分	0～4点	1,187 (75.1%)	1,388 (70.2%)	2,575 (72.4%)
	5～9点	238 (15.1%)	348 (17.6%)	586 (16.5%)
	10～12点	85 (5.4%)	120 (6.1%)	205 (5.8%)
	13点以上	70 (4.4%)	120 (6.1%)	190 (5.3%)
	計	1,580 (100.0%)	1,976 (100.0%)	3,556 (100.0%)

※問39 集計から除外:設問内矛盾(1項目内で2つ以上選択)、無回答(1項目以上)

【ギャンブル等依存が疑われる者とうつ、不安の関連】

SOGSの得点区別にK6の得点区分を比較したところ、ギャンブル等依存が疑われる者の群では、有意に重度のうつ・不安障害が強いことが示された。 $(\chi^2(3)=23.322, p<.01)$ (図表41)

図表41 ギャンブル等依存とうつ、不安の相関

		K6 得点区分				全体
		0～4点	5～9点	10～12点	13点以上	
SOGS得点	5点未満	2,471 (72.5%)	561 (16.5%)	197 (5.8%)	178 (5.2%)	3,407 (100.0%)
	5点以上	33 (55.9%)	9 (15.3%)	6 (10.2%)	11 (18.6%)	59 (100.0%)
	全体	2,504 (72.2%)	570 (16.4%)	203 (5.9%)	189 (5.5%)	3,466 (100.0%)

※集計から除外:問39で設問内矛盾(1項目内で2つ以上選択)、無回答(1項目以上)、

SOGS(問18-31)に回答不備(n=102)

※残差分析の結果 *p<.05, **p<.01, ns: 有意差なし

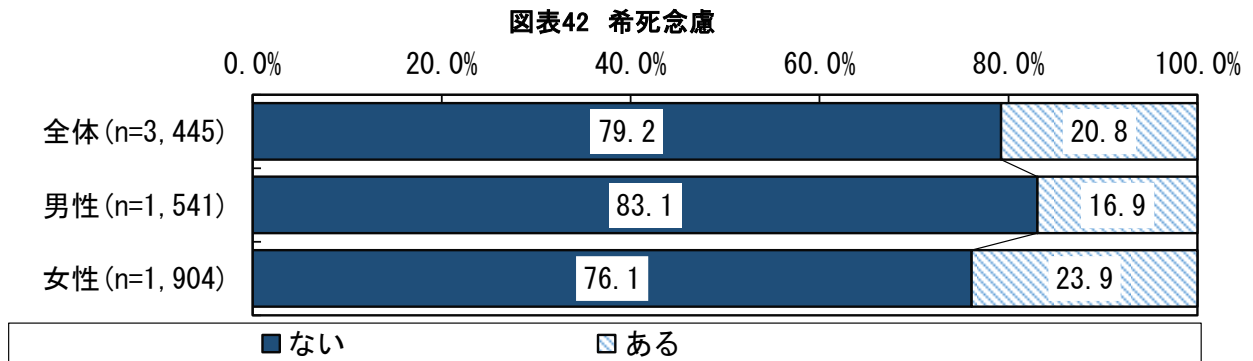
(2) ギャンブル等問題と希死念慮・自殺企図との関連

【問40】 あなたは、これまでに自殺したいと考えたことがありますか。(単一選択)

【問41】 あなたはこれまでに自殺未遂をしたことがありますか。(単一選択)

【全体の傾向:希死念慮】

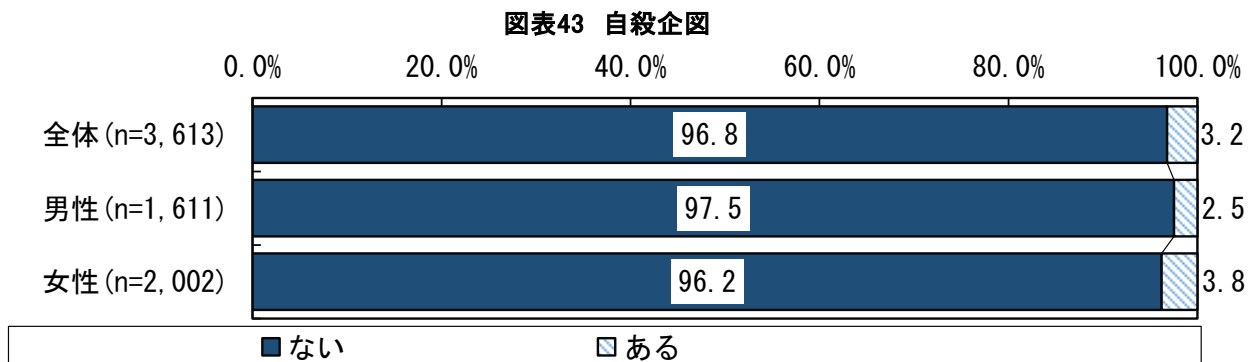
これまでに自殺したいと考えたことがあるとの回答割合は、全体で20.8% であり、男性では16.9%、女性では23.9% であった。(図表42)



※問40 集計から除外: 答えたくない(n=256)、無回答(n=84)

【全体の傾向:自殺企図】

これまでに自殺未遂をしたことがあるとの回答割合は、全体では3.2% であり、男性では2.5%、女性では3.8% であった。(図表43)



※問41 集計から除外: 答えたくない(n=91)、無回答(n=81)

【ギャンブル等依存が疑われる者と希死念慮】

SOGSの得点区別に「これまでに自殺したいと考えたことがありますか」との質問への回答割合を比較したところ、ギャンブル等依存が疑われる者の群では、希死念慮を有する割合が有意に高かった。 $(\chi^2(1)=7.576, p<.05)$ (図表44)

図表44 ギャンブル等依存と希死念慮

		希死念慮		
		ない	ある	全体
SOGS 得点	5点未満	2,619 (79.4%)	681 (20.6%)	3,300 (100.0%)
	5点以上	36 (64.3%)	20 (35.7%)	56 (100.0%)
	全体	2,655 (79.1%)	701 (20.9%)	3,356 (100.0%)

※集計から除外：問40で答えたくない(n=256)・無回答(n=84)、SOGS(問18-31)に回答不備(n=102)

【ギャンブル等依存が疑われる者と自殺企図】

SOGSの得点区別に「あなたはこれまでに自殺未遂をしたことがありますか」との質問への回答割合を比較したところ、ギャンブル等依存が疑われる者の群とそうでない群で、自殺企図を経験した割合に有意な差は認めなかった。(図表45)

図表45 ギャンブル等依存と自殺企図

		自殺企図		
		ない	ある	全体
SOGS 得点	5点未満	3,350 (96.8%)	110 (3.2%)	3,460 (100.0%)
	5点以上	57 (95.0%)	3 (5.0%)	60 (100.0%)
	全体	3,407 (96.8%)	113 (3.2%)	3,520 (100.0%)

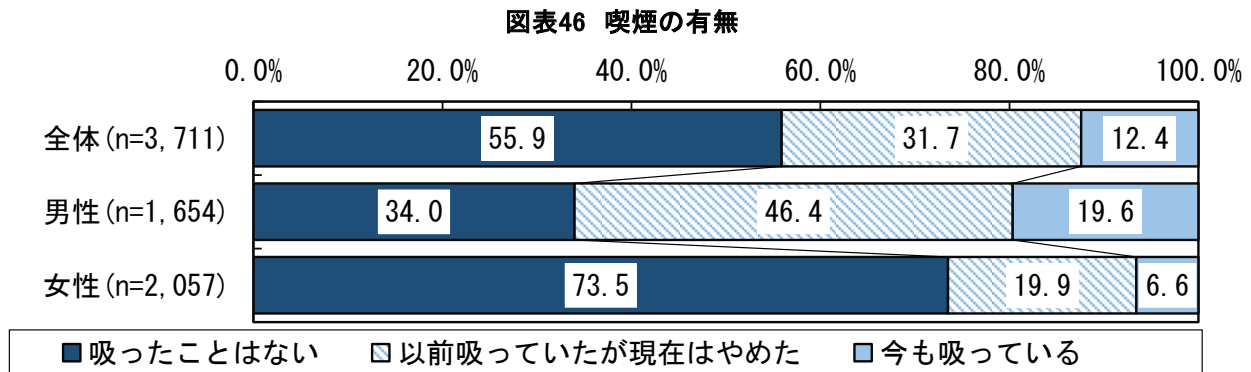
※集計から除外：問41で答えたくない(n=91)・無回答(n=81)、SOGS(問18-31)に回答不備(n=102)

(3) ギャンブル等問題と喫煙の関連

【問43】 あなたの喫煙(紙巻きタバコ、電子タバコ、加熱式タバコ含む)について、あてはまるものを1つ選んでください。

【全体の傾向:喫煙】

現在または過去の喫煙があるとの回答割合は、全体で44.1% であり、男性では66.0%、女性では26.5%であった。(図表46)



※問43 集計から除外:無回答(n=74)

【ギャンブル等依存が疑われる者と喫煙の関連】

SOGSの得点区別に喫煙歴を「吸ったことはない」「以前吸っていたが現在はやめた」「今も吸っている」に分類して比較したところ、ギャンブル等依存が疑われる者の群では現在も喫煙している割合が有意に高かった。 $(\chi^2(2) = 61.971, p < .01)$ (図表47)

図表47 ギャンブル等依存と喫煙の相関

		喫煙歴			全体
		吸ったことはない**	以前吸っていたが現在はやめた**	今も吸っている**	
SOGS 得点	5点未満	2,016 (56.8%)	1,117 (31.5%)	418 (11.8%)	3,551 (100.0%)
	5点以上	14 (22.2%)	22 (34.9%)	27 (42.9%)	63 (100.0%)
	全体	2,030 (56.2%)	1,139 (31.5%)	445 (12.3%)	3,614 (100.0%)

※集計から除外:問43で無回答(n=74)、SOGS(問18-31)に回答不備(n=102)

※残差分析の結果 *p < .05、**p < .01、ns: 有意差なし

(4) ギャンブル等問題と飲酒問題との関連

【問44】あなたはアルコールが含まれる飲料をどのくらいの頻度で飲みますか。(単一選択)

【問45】飲酒するときには通常どのくらいの量を飲みますか。(単一選択)

【問46】1度に6ドリンク以上飲酒することがどのくらいの頻度でありますか。(単一選択)

問44-46で用いたAUDIT-Cとは、アルコール使用障害のスクリーニングテストであり、AUDIT(The Alcohol Use Disorders Identification Test)の質問の中から飲酒量、飲酒頻度、多量飲酒頻度を問う3項目によってアルコール問題の有無を評価するもので、12点満点中、男性は5点以上、女性は4点以上の場合に、何らかのアルコール問題があるとされる。

【全体の傾向:飲酒問題】

男性1,581名中AUDIT-C5点以上は630名(39.8%)であった。女性1,933名中、AUDIT-C4点以上は472名(24.4%)であった。(図表48)

図表48 AUDIT-C 得点の分布

		男性	女性	全体
AUDIT-C 得点区分	男性 0 ~ 4点 / 女性 0 ~ 3 点	951 (60.2%)	1,461 (75.6%)	2,412 (68.6%)
	男性 5点以上 / 女性 4 点以上	630 (39.8%)	472 (24.4%)	1,102 (31.4%)
	計	1,581 (100.0%)	1,933 (100.0%)	3,514 (100.0%)

※集計から除外:問44-46のうち、1つ以上無回答・矛盾回答(1問で2つ以上の選択肢を選択)(n=271)

【ギャンブル等依存が疑われる者と飲酒問題の関連】

SOGSの得点区分別に、AUDIT-Cによる飲酒問題のあり、なしの割合を比較したところ、ギャンブル等依存が疑われる者の群では飲酒問題のある割合が有意に高かった。(図表49)

図表49 ギャンブル等依存と飲酒問題との相関

		飲酒問題		
		なし	あり	全体
SOGS 得点	5点未満	2,520 (74.9%)	845 (25.1%)	3,365 (100.0%)
	5点以上	27 (43.5%)	35 (56.5%)	62 (100.0%)
	全体	2,547 (74.3%)	880 (25.7%)	3,427 (100.0%)

※集計から除外:問44-46のうち、1つ以上無回答・答えない・矛盾回答(1問で2つ以上の選択肢を選択)(n=271)、SOGS(問18-31)に回答不備(n=102)

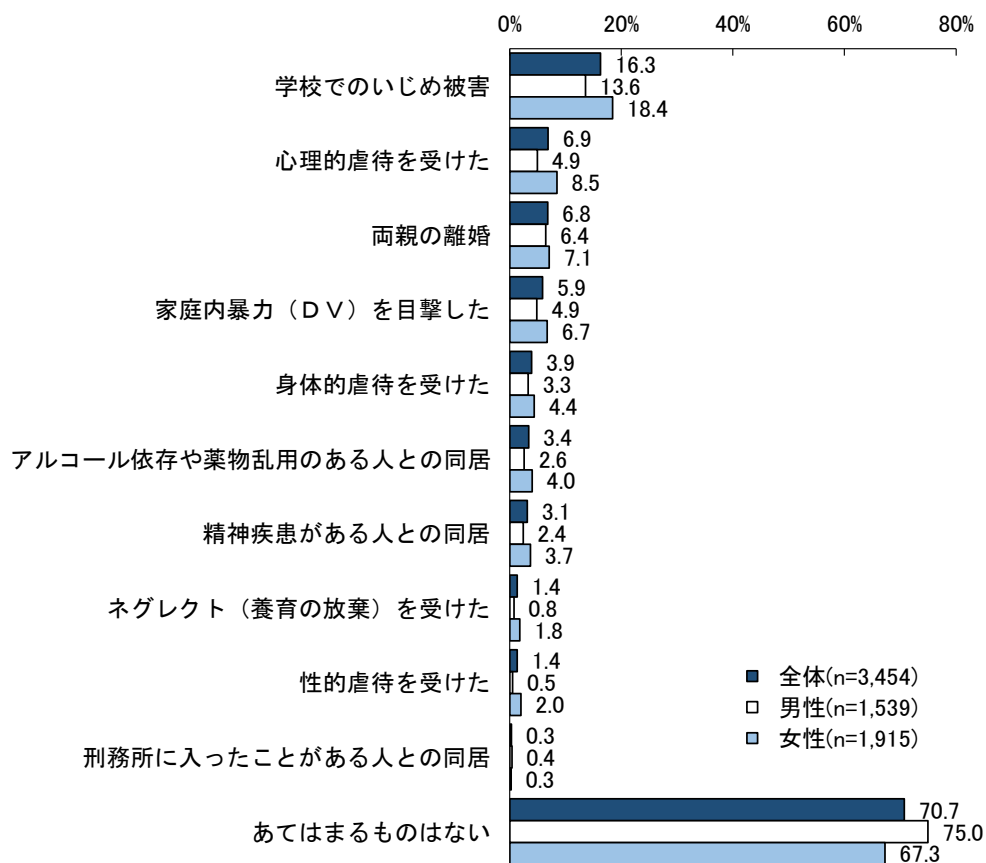
(5) ギャンブル等問題と小児期逆境体験との関連

【問42】あなたが18歳までに経験したことがあるものすべてに○をつけてください。

【全体の傾向：小児期逆境体験】

選択肢10項目の逆境体験のうち、1つ以上に該当した者は、全体で29.3%であり、男性では25.0%、女性では32.7%であった。図表50では、それぞれの項目に該当すると回答した者の割合を示した。経験した割合が最も高かったのは「学校でのいじめ被害」であり、男性の13.6%、女性の18.4%が「学校でのいじめ被害」を18歳までに経験したと回答した。(図表50)

図表50 小児期逆境体験の有無



※問42 集計から除外：答えたくない(n=133)、無回答(n=198)

【ギャンブル等依存が疑われる者と小児期逆境体験】

SOGSの得点区別に18歳までの小児期逆境体験(10項目)のうち、1項目以上に該当する者の割合を比較したところ、SOGS 5点未満の29.2%に対し、ギャンブル等依存が疑われる者の群(SOGS 5点以上)では48.3%と、有意に高かった。(図表51)

図表51 ギャンブル等依存と小児期逆境体験

		小児期の逆境体験		
		なし	あり	全体
SOGS 得点	5点未満	2,342 (70.8%)	967 (29.2%)	3,309 (100.0%)
	5点以上	30 (51.7%)	28 (48.3%)	58 (100.0%)
	全体	2,372 (70.4%)	995 (29.6%)	3,367 (100.0%)

※集計から除外：問42で答えたくない(n=133)・無回答(n=198)、SOGS(問18-31)に回答不備(n=102)

7.6 「家族や重要な他者のギャンブル等問題のある(あった)者」と抑うつ、不安との関連

(1)「家族や重要な他者のギャンブル等問題のある(あった)者」と抑うつ、不安との関連

【問34】次にあげる人の中に、ギャンブル等の問題がある(あった)人はいますか。今はなくとも過去にギャンブル等の問題があった人についても○をつけてください。(複数選択)

【抑うつと不安との関連】

家族や重要な他者のギャンブル等の問題がある(あった)人の有無でみると、K6得点5点以上の割合は、「いない」(24.9%)より「いる」(42.2%)の方が高かった。 $(\chi^2(1)=84.529, p<.01)$ (図表52)

図表52 家族や重要な他者のギャンブル等問題があった人の有無と抑うつと不安の相関

		家族や重要な他者のギャンブル等の問題がある(あった)人の有無		
		いる	いない	全体
K6得点 区分	0～4点	325 (57.8%)	2,137 (75.1%)	2,462 (72.3%)
	5～9点	120 (21.4%)	442 (15.5%)	562 (16.5%)
	10～12点	58 (10.3%)	141 (5.0%)	199 (5.8%)
	13点以上	59 (10.5%)	125 (4.4%)	184 (5.4%)
	計	562 (100.0%)	2,845 (100.0%)	3,407 (100.0%)

※集計から除外：問39で設問内矛盾(1項目内で2つ以上選択)、無回答(1項目以上)、問34に回答不備

7.7 ギャンブル等依存症に対する認識とギャンブル等依存症対策の認知度

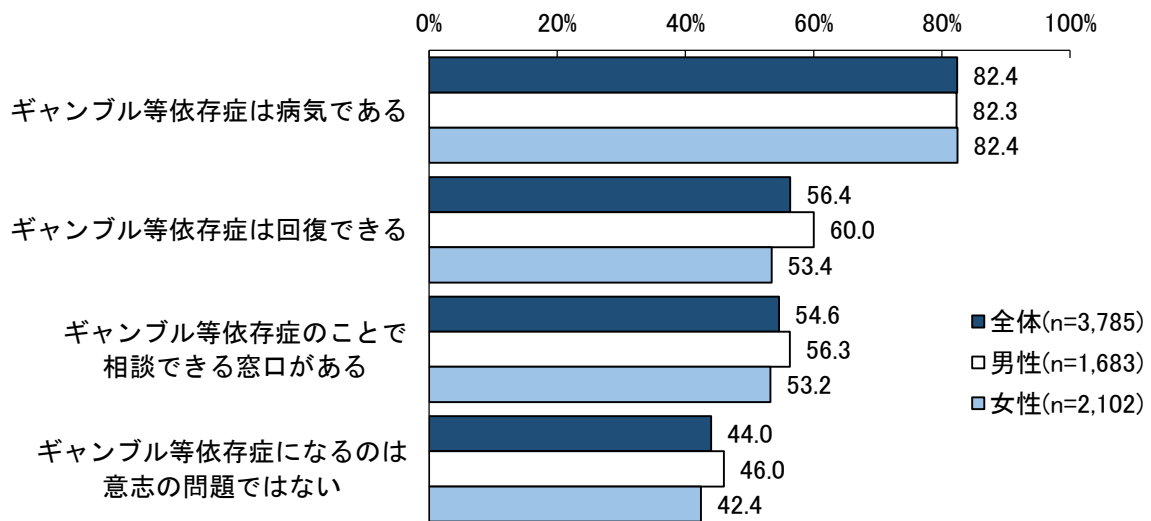
(1)ギャンブル等依存症に対する認識

【問37】 ギャンブル等依存症について知っていることについて、あてはまる番号をそれぞれ1つずつ選んでください。

【全体の傾向】

ギャンブル等依存症に関して、「知っている」との回答は、全体では「ギャンブル等依存症は病気である」が82.4%、「ギャンブル等依存症は回復できる」が56.4%、「ギャンブル等依存症のことで相談できる窓口がある」が54.6%、「ギャンブル等依存症になるのは意志の問題ではない」が44.0%であった。「ギャンブル等依存症は病気である」以外は、女性より男性の方が「知っている」と回答した割合が高い。(図表53)

図表53 ギャンブル等依存症に対する認識



※(%)は、「知っている」と回答した者の割合

【ギャンブル等依存が疑われる者におけるギャンブル等依存症に対する認識】

ギャンブル等依存症に関して、ギャンブル等依存が疑われる者の群とそうでない群で比較したところ、有意差はなかった。(図表54)

図表54 ギャンブル等依存症の認識について「知っている」と回答した者の割合【SOGS得点区分比較】

		ギャンブル等依存症は病気である	ギャンブル等依存症は回復できる	ギャンブル等依存症になるのは意志の問題ではない	ギャンブル等依存症のことで相談できる窓口がある
SOGS 得点	5点未満	2,982 (87.4%) 【有効回答者 3,412】	2,042 (60.8%) 【有効回答者 3,356】	1,590 (47.9%) 【有効回答者 3,320】	1,974 (58.6%) 【有効回答者 3,371】
	5点以上	55 (88.7%) 【有効回答者 62】	36 (63.2%) 【有効回答者 57】	31 (56.4%) 【有効回答者 55】	40 (70.2%) 【有効回答者 57】
	全体	3,563	3,495	3,455	3,515

※集計から除外：問37で無回答、SOGS(問18-31)に回答不備(n=102)

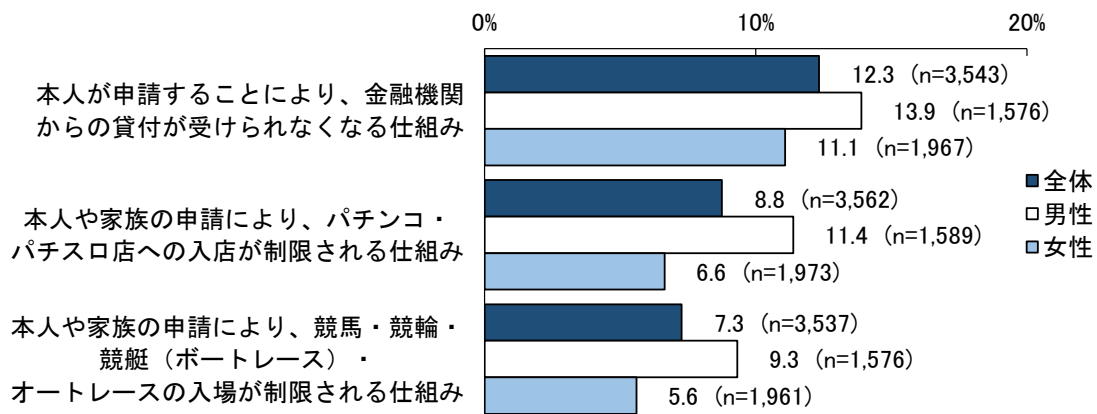
(2) ギャンブル等依存症対策の認知度

【問38】 ギャンブル等依存症対策に関する下記の①～③の仕組みについて、あてはまる番号をそれぞれ1つ選んで○をつけてください。

【全体の傾向】

ギャンブル等依存症対策に関して、「知っている」との回答は、全体では「金融機関からの貸付制限」が12.3%、「パチンコ・パチスロの入店制限」が8.8%、「競馬・競輪・競艇・オートレースの入場制限」が7.3%であった。また、全ての項目で女性より男性の方が「知っている」と回答した割合が高い傾向にあった。(図表55)

図表55 ギャンブル等依存症対策の認知度



※問38 集計から除外：無回答（上から n = 242、223、248）
※(%)は、「知っている」と回答した者の割合

【ギャンブル等依存が疑われる者におけるギャンブル等依存症対策に関する認知度】

ギャンブル等依存症対策に関して、「パチンコ・パチスロの入店制限」、「競馬・競輪・競艇・オートレースの入場制限」の項目で、SOG5点以上の者は5点未満の者と比べ、「知っている」と回答した割合が有意に高かった。SOG5点以上の者のうち、「パチンコ・パチスロの入店制限」は16.7%、「競馬・競輪・競艇・オートレースの入場制限」は15.8%が「知っている」と回答した。(図表56)

図表56 ギャンブル等依存症対策等を「知っている」と回答した者の割合【SOG5点区分比較】

		本人や家族の申請により、パチンコ・パチスロ店への入店が制限される仕組み a	本人や家族の申請により、競馬・競輪・競艇（オートレース）の入場が制限される仕組み b	本人が申請することにより、金融機関からの貸付が受けられなくなる仕組み c
SOG5 得点	5点未満	290 (8.5%) 【有効回答者 3,414】	240 (7.1%) 【有効回答者 3,394】	414 (12.2%) 【有効回答者 3,397】
	5点以上	10 (16.7%) 【有効回答者 60】	9 (15.8%) 【有効回答者 57】	10 (17.2%) 【有効回答者 58】
	全体	3,562	3,537	3,543

※集計から除外：問38で無回答、SOG5(問18-31)に回答不備(n=102)
※ χ^2 検定の結果 a : $\chi^2(1)=4.991, p<.05$ 、b : $\chi^2(1)=6.364, p<.05$

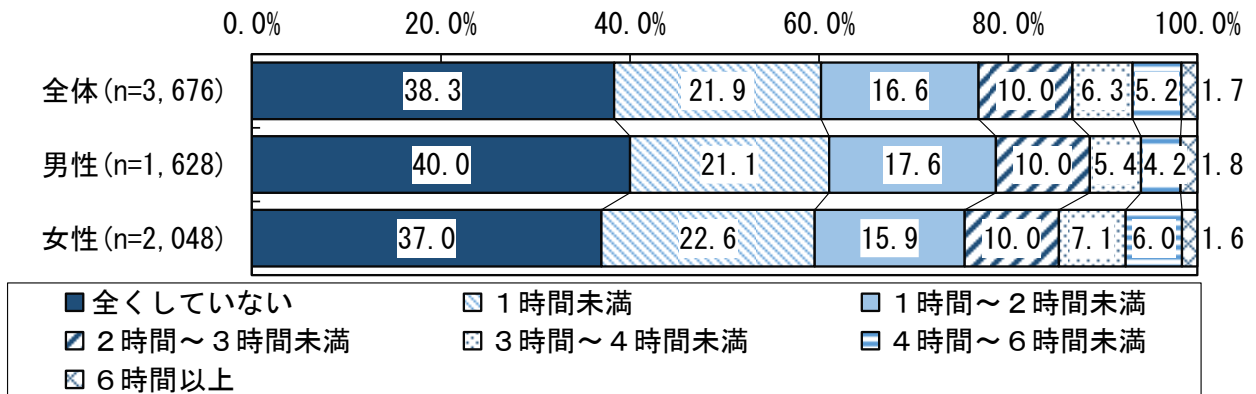
7.8 ゲーム、インターネットの利用時間

(1) ゲームの利用時間

【問47】 1日のうち、娯楽としてゲーム(パソコン、ゲーム機、スマートフォン、携帯電話などを使用するすべてを含む)を、平均何時間くらい利用していますか。(単一選択)

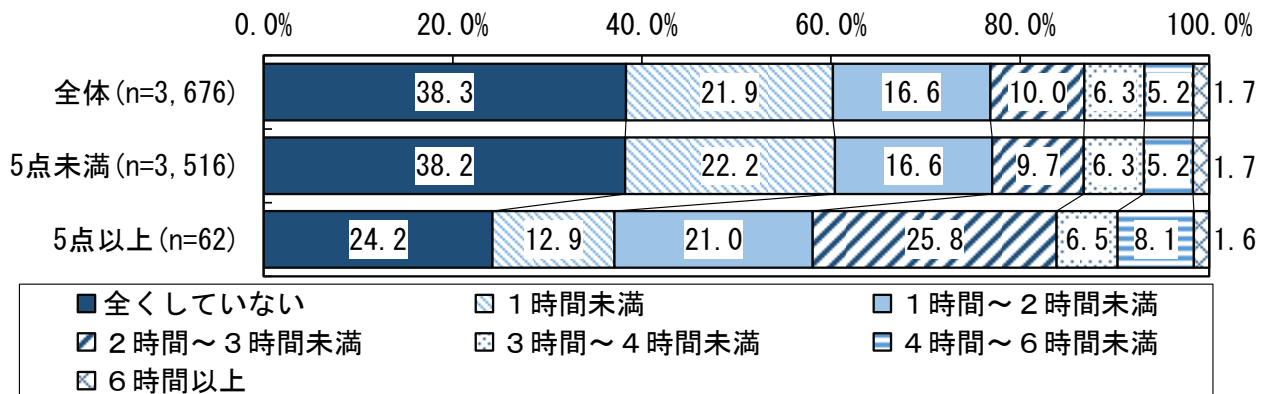
1日のうちに娯楽としてゲームを利用する時間は、全体では「全くしていない」38.3%、「1時間未満」21.9%、「1時間～2時間未満」16.6%の順で割合が高かった。男女での大きな差は見られなかった(図表57)。一方、SOGS得点別にみると、SOGS得点5点以上の者においては、「全くしていない」が24.2%と少なく、「2時間～3時間未満」が25.8%と多くみられた(図表58)。

図表57 1日のゲームの平均利用時間(男女別)



※問47 集計から除外:無回答(n=109)

図表58 1日のゲームの平均利用時間(SOGs得点別)



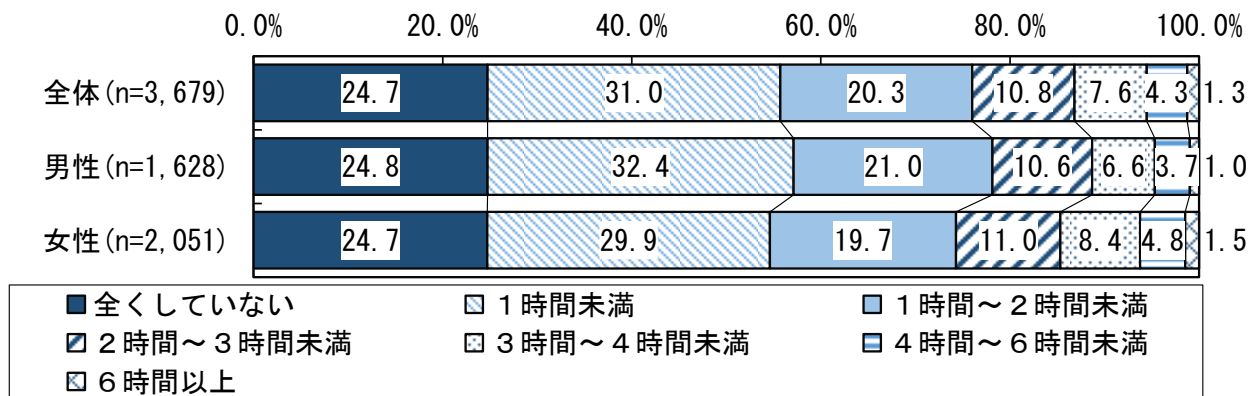
※問47 集計から除外:無回答(n=109)

(2) インターネットの利用時間

【問48】 1日のうち、娯楽としてインターネットを利用し、SNS(LINE、インスタグラム、Twitter等)、動画サイトを含め、ウェブサイトの閲覧を、平均何時間くらいしていますか。(単一選択)

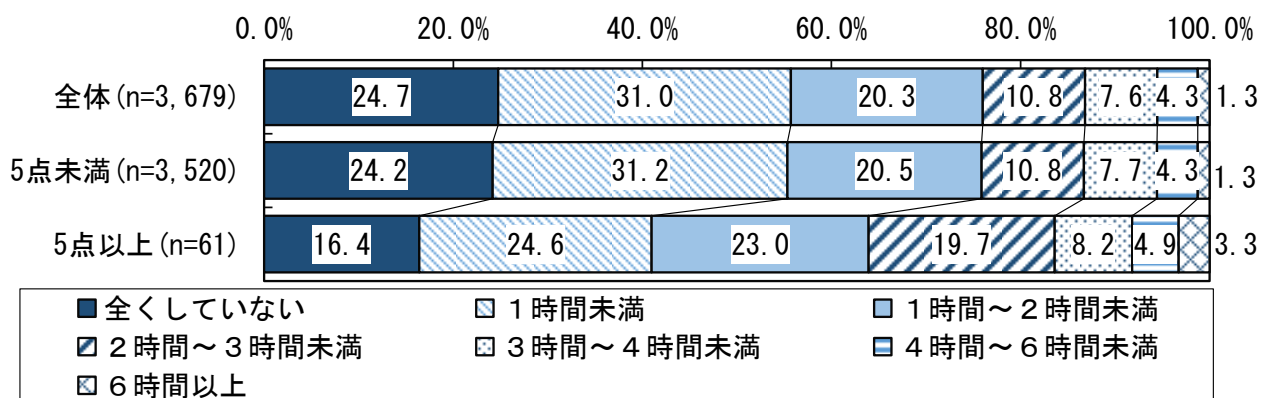
1日のうちに娯楽としてインターネットを利用する時間は、全体では「1時間未満」31.0%、「全くしていない」24.7%、「1時間～2時間未満」20.3%の順で割合が高かった。男女での大きな差は見られなかった(図表59)。一方、SOGS得点別にみると、SOGS得点5点以上の者においては、「全くしていない」が16.4%と少なく、「2時間～3時間未満」が19.7%と多くみられた(図表60)。

図表59 1日のインターネットの平均利用時間(男女別)



※問48 集計から除外:無回答(n=106)

図表60 1日のインターネットの平均利用時間(SOGs得点別)



※問48 集計から除外:無回答(n=106)

8 調査結果のまとめ

今回の調査の結果の概要を以下にまとめる。

(1) ギャンブル等行動

男性の 82.8%、女性の 61.1%が、生涯にギャンブル等の経験があり、過去1年間にギャンブル等経験のある者は、男性の 42.9%、女性の 20.4% であった。年齢別では、過去1年間でギャンブル等の経験のある割合が最も高いのは 50 歳代(50～59 歳)であった。

ギャンブル等の種類では、過去 1 年間で最も経験した者が多かったのは宝くじ(ロト・ナンバーズ等含む)であり、パチンコがその次に多かった。過去1年間に最もお金を使ったギャンブル等の種類は、男女とも宝くじ(ロト・ナンバーズ等含む)が最多で、パチンコが次に多かった。

(2) ギャンブル等問題

家族や重要な他者にギャンブル等問題があったと回答したのは、全体の 16.9%(男性 13.2%、女性 19.9%)であり、男女とも「父親」にギャンブル等問題があったという回答が最多であったが、男性では「兄弟姉妹」が次ぎ、女性では「配偶者」が次に多かった。

家族や重要な他者のギャンブル等問題から受けた影響として、男性では「浪費、借金による経済的困難が生じた」、女性では「ギャンブル等を止められない人への怒りを感じた」が最多であった。

(3) ギャンブル等依存が疑われる者

SOGS 5 点以上で過去1年間にギャンブル等依存が疑われる者は、全体で 1.7%、男性が 3.3%、女性が 0.5% であった。年齢調整後の割合は、全体で 1.9%(95%信頼区間 1.5%～2.3%)、男性 3.4%(95%信頼区間 2.5%～4.3%)、女性 0.5%(95%信頼区間 0.2%～0.8%)であった。また、SOGS3～4 点で過去1年間にギャンブル等依存のリスクがある者は、全体で 1.5%(95%信頼区間 1.1%～1.9%)、男性 2.9%(95%信頼区間 2.1%～3.7%)、女性 0.4%(95%信頼区間 0.1%～0.7%)であった。

なお、PGSI では、過去1年間にギャンブル等依存が疑われる者は、全体で 1.0%、年齢調整後は 1.1%(95%信頼区間 0.8%～1.4%)であった。

(4) ギャンブル等関連問題

① 抑うつ、不安

K6 を用いて過去1か月の抑うつ・不安の強さを評価したところ、SOGS 5 点以上の者は、5 点未満の者と比較して、有意に重度のうつ・不安障害が疑われた。

② 希死念慮と自殺企図

今までに自殺を考えたことがある者の割合を SOGS 5 点以上の者と 5 点未満の者と比較したところ、SOGS 5 点以上の者は有意に割合が高かった。自殺企図においては有意な差は確認できなかった。

③ 喫煙

喫煙率を SOGS 5 点以上の者と 5 点未満の者と比較したところ、SOGS 5 点未満の者では 11.8%が喫煙者であったが、SOGS 5 点以上の者では 42.9%と有意に高い割合であった。

④ 飲酒問題

飲酒問題を AUDIT-C で評価したところ、全体で 31.4%、男性が 39.8%、女性が 24.4%に何らかのアルコール問題があるとされた。SOGS 5 点以上の者と 5 点未満の者と比較したところ、SOGS 5 点未満の者では飲酒問題があるのは 25.1%だったが、SOGS 5 点以上の者では 56.5%と有意に高い割合であった。

⑤ 小児期逆境体験

幼少期や思春期までに経験した身体的虐待、心理的虐待、性的虐待、ネグレクトなどの過酷な体験は、子どもの心理発達に深刻な影響を与え、その後の人生において健康上の問題と関連することが指摘されていることから、本調査では、小児期逆境体験について情報を得た。18歳までの小児期逆境体験があるのは全体で29.3%、男性が25.0%、女性が32.7%だった。小児期逆境体験の有無を SOGS 5点以上の者と5点未満の者と比較したところ、SOGS 5点未満の者では逆境体験があるのは29.2%だったが、SOGS 5点以上の者では48.3%と有意に高い割合であった。

(5) 「家族や重要な他者のギャンブル等問題のある(あった)者」と抑うつ、不安との関連

「家族や重要な他者のギャンブル等の問題の有無」と「抑うつ・不安」との関連を検証した。

家族や重要な他者のギャンブル等の問題がある(あった)人の有無でみると、K6 5点以上の割合は、「いない」(24.9%)より「いる」(42.2%)の方が有意に高かった。

(6) ギャンブル等依存症および依存症対策の認知度

ギャンブル等依存症については、①ギャンブル等依存症は病気である、②ギャンブル等依存症は回復できる、③ギャンブル等依存症になるのは意思の問題ではない、④ギャンブル等依存症のことで相談できる窓口がある、の4項目について調査した。

知っていると回答した者の割合は、全体で①82.4%、②56.4%、③44.0%、④54.6%で、SOGS 得点別にみると、①②では差はみられなかったが、③④では SOGS 得点 5点以上の者で認知度が高かった。

また、ギャンブル等依存症対策については、①本人や家族の申請により、パチンコ・パチスロ店への入店が制限される仕組み、②本人・家族の申請により競馬・競輪・競艇・オートレースの入場が制限される仕組み、③本人の申請により、金融機関からの貸付が受けられなくなる仕組みといった、ギャンブル等依存症対策の認知度を調査した。

知っていると回答した者の割合は、全体で①8.8%、②7.3%、③12.3%といずれも低い割合で、①②では、SOGS5点以上の者は5点未満の者と比べ「知っている」と回答した割合が有意に高かった。

(7) ゲーム、インターネットとの関わり

本調査では、娯楽としてのゲーム、インターネットとの関わりについて把握するため、1日の利用時間を調査した。

ゲームについては、全体で、未利用が38.3%、2時間未満が38.5%、2時間以上が23.2%、インターネットについては、未利用が24.7%、2時間未満が51.3%、2時間以上が24.0%であった。

SOGS 得点別に利用状況を比較してみると、ゲームについては、SOGS5点未満の者では未利用が38.2%、2時間以上が23.0%なのに対し、SOGS5点以上の者では未利用が24.2%、2時間以上が41.9%と、利用率が高く、利用時間も長かった。

インターネットについても、SOGS5点未満の者では未利用が24.2%、2時間以上が24.1%なのに対し、SOGS5点以上の者では未利用が16.4%、2時間以上が36.1%と、利用率が高く、利用時間も長い傾向がみられた。

9 調査結果の考察

(1) 大阪府民のギャンブル等行動

① ギャンブル等の経験と経験したギャンブル等の種類、購入方法

生涯においてギャンブル等を経験したことがある人は、男性 82.8%、女性 61.1%であった。過去 1 年でギャンブル等を行った人は、男性 42.9%、女性 20.4%であり、女性より男性でギャンブル等の経験が多かった。生涯及び過去 1 年ともに経験したギャンブル等は、宝くじ(ロト、ナンバーズ等含む)、パチンコ、競馬、パチスロの順で多かった。

また、競馬・競輪・競艇・オートレース、宝くじ(ロト・ナンバーズを含む)、スポーツ振興くじ(サッカーくじ等)の経験をした者を対象に集計したところ、インターネット購入を利用していたのは、スポーツ振興くじ(サッカーくじ等)で 46.0%、オートレースで 32.4%、競馬で 29.3%であった。

社会状況の変化があり、近年、公営競技におけるインターネット投票の利用増加により、売り上げに占めるインターネット投票の割合が上昇している¹⁾ことから、今後もインターネット投票(購入)の増加が予想され、インターネット投票に関する注意喚起の啓発が必要である。

また、既存のものとは性質の異なる新しい宝くじや、ギャンブル性の高いゲーム、違法なインターネットギャンブルなど存在するギャンブル等の種類が多岐にわたり、また変化している。ギャンブル等行動の実態把握のためには、経験したギャンブル等の種類やインターネットにおけるギャンブル等経験を問うなど設問の工夫も必要である。併せて、違法なインターネットギャンブルについての周知啓発が必要である。

② ギャンブル等開始年齢

初めてギャンブル等を開始したのは、10 歳代で、26.8%、20 歳代で 57.1%であった。ギャンブル等の経験のある人のうち、少なくとも月 1 回以上の頻度で習慣的にギャンブル等をするようになったのは、51.6%(男性 70.0%、女性 24.8%)であり、男性の方が習慣的にギャンブル等をするようになる傾向がみられた。また、習慣的にギャンブル等をするようになった年齢は、10 歳代で、10.8%、20 歳代で 26.2%であった。

初めてギャンブル等をした年齢は、18 歳と 20 歳にピークが見られた。ギャンブル等の開始は、法律における年齢制限に加えて、進学や就労など生活環境の変化の影響が考えられる。なお、男性の方が、女性より、18 歳から開始した割合が高い傾向が見られた。

これらを踏まえて、若者や若者に関わる機会の多い人等に対して、依存症に関する知識や相談できる場所などについて啓発を進めていくことが必要である。

さらに、18 歳未満で開始している人が、149 人(6.0%)おり、開始年齢が低いことはギャンブル障害のリスク要因であると報告されていること²⁾から、子どもへの予防教育だけではなく、周囲の大人への啓発も必要である。

③ 家族や重要な他者のギャンブル等問題とその影響

家族や重要な他者にギャンブル等の問題がある(あった)のは、男性 13.2%、女性 19.9%で、女性に多かった。

ギャンブル等の問題がある(あった)人は男女ともに「父親」(男性が 6.5%、女性が 7.0%)が最も多く、女性では、「父親」について、「配偶者(内縁関係を含む)」(6.2%)が多かった(男性は、1.3%)。そして、ギャンブル等問題から受けた影響は、「浪費、借金による経済的困難が生じた」「ギャンブル等をやめられない人に怒りを感じた」の順に多かった。受けた影響について男女を比較すると、「ギャンブル等をやめられない人に怒りを感じた」(男性 23.0%、女性 38.3%)と回答した割合は女性の方が有意に高く、女性では最多であった。

また、あなたの重要な関係者(家族や友人、同僚、交際相手など)がギャンブル等のことで困った時の

相談先として、「家族・友人」が 50.8%で最も多く、「公的な相談機関」を選択したのは 43.1%、一方で、「誰(どこ)にも相談しない」が 16.8%であった。

家族や重要な他者のギャンブル等問題から受けた影響は、金銭的問題や、家庭不和・別居・離婚等さまざまであり、公的な相談窓口を訪れる際の主訴もさまざまであるため、公的な相談窓口の職員において、ギャンブル等依存の背景に起こる問題等について知ってもらい、適切な支援ができるよう支援者に向けた研修を重ねていく必要がある。また、重要な関係者のギャンブル等の困りごとについて相談された家族や友人が、適切な対応ができるように、依存症の正しい知識の普及や相談できる場所について啓発が必要である。

(2) 「ギャンブル等依存が疑われる者」の割合の推計

① SOGS、PGSI での評価

SOGS では、1.9%が「ギャンブル等依存が疑われる者(SOGS5点以上)」であった。ただし、SOGS5点以上を示す者は、DSM5による診断基準を満たすものよりも多いと言われており、SOGS5点以上の者が必ずしもギャンブル等依存症を意味するわけではない³⁾。PGSI では得点 8 点以上の回答者を「ギャンブル等依存が疑われる者」としているが、その結果は、1.1%であった。

府の第2期ギャンブル等依存症対策推進計画⁴⁾では、SOGS3点～4点の者を「ギャンブル等依存のリスクがある者」(1.5%)と捉え、発生予防の観点から、「ギャンブル等依存が疑われる者(SOGS5点以上)」(1.9%)と合わせた「ギャンブル等依存が疑われる者等」(3.4%)について、今後の推移を把握していくこととする。

② 性差

「ギャンブル等依存が疑われる者」は、「SOGS5点以上」は、男性 53 人、女性 11 名、「PGSI8点以上」は、男性 31 名、女性6名で、男性が多かった。

③ 令和2年度府で実施した「ギャンブル等と健康に関する調査」との比較

令和2年度に実施した「ギャンブル等と健康に関する調査」⁵⁾では、「ギャンブル等依存が疑われる者」は、「SOGS5点以上」は、1.3%、「PGSI8点以上」は、0.7%であり、今回の調査結果は、前回の調査結果の信頼区間内での結果となっている。

(3) 「ギャンブル等依存が疑われる者」のギャンブル行動

SOGS5点以上の者が、過去 1 年で経験したギャンブル等は、パチンコ、宝くじ(ロト・ナンバーズ含む)、パチスロ、競馬の順に多かった。令和3年度の当センターの依存症専門相談のうちギャンブル等に関する相談では、パチンコ・パチスロの相談が一番多く、次いで、競馬となっている。なお、近年では、公営競技のインターネット投票や、インターネットギャンブルについての相談も増えている。

また、1 か月あたりギャンブル等に使った金額の平均値は、44.2 万円、中央値は、8 万円であり、10 万円以上 50 万円未満が最も多かった。本調査は、自己報告式の調査であり、ギャンブル等の問題等のデリケートな質問に対して、正しく回答しにくかった可能性を考慮する必要がある。

(4) 「ギャンブル等依存が疑われる者」における「ギャンブル等関連問題」

① 抑うつ、K6

K6は、米国の Kessler らによって、うつ病・不安障害などの精神疾患をスクリーニングすることを目的として開発された、一般住民を対象とした調査で、心理的ストレスを含む何らかの精神的な問題の程度を表す指標として広く利用されている。合計点数0～4点(問題なし)、5～9点(何らかのうつ、不安問題がある可

能性がある)、10~12点(うつ・不安障害が疑われる)、13点以上(重度のうつ・不安障害が疑われる)と、得点が高いほど、精神的な問題がより重い可能性があるとしてされている⁶⁾。

K6の得点が5点以上で、過去1か月の間に、「抑うつ・不安」の問題がある者は、全体の27.6%で、男女別では、男性(24.9%)より女性(29.8%)で割合が高かった。SOG5点以上では、K6の得点13点以上(重度のうつ・不安障害が疑われる)は18.6%で、SOG5点未満のうちのK6の得点13点以上(5.2%)と比較して割合が高く、統計学的にも有意であった。

そのため、抑うつや不安の症状で相談や受診をする者の背景に、ギャンブル等依存の問題が隠れていないか、留意することが必要である。

② 希死念慮・自殺企図

「これまでに自殺したいと考えたこと」があるとの回答は、全体で20.8%、SOG5点以上の「ギャンブル等依存が疑われる者」では35.7%であった。ギャンブル等依存が疑われる者に高い割合で希死念慮が認められ、統計学的にも有意であった。また、「これまでに自殺未遂をしたことがある」と回答したのは、全体で3.2%、SOG5点以上の「ギャンブル等依存が疑われる者」では、5.0%であった。

ギャンブル等依存症では、借金などの経済的問題を抱えるケースも多く、ギャンブル等の問題のある人と接する可能性のある各種相談窓口等へ依存症についての正しい知識や対応についての啓発とともに、自殺対策等と連動して対策を進めていくことが重要である。

③ 喫煙、飲酒

府民の飲酒傾向として、何らかのアルコール問題があるとされるAUDIT-C5点以上(女性は、4点以上)は、男性は39.8%であり、女性は、24.4%であり、リスクのある飲酒をしている者の割合が一定あり、リスクある飲酒をしている者の割合を減らしていく取組みも必要である。

「ギャンブル等依存が疑われる者」との関連については、SOGの得点区別に、AUDIT-Cによる飲酒問題の有無について比較したところ、5点未満で、25.1%、5点以上で56.5%であり、「ギャンブル等依存が疑われる者」では、飲酒問題のある割合が有意に高かった。また、SOGの得点区別に喫煙歴を比較したところ、「今も吸っている」は5点未満で11.8%、5点以上で42.9%であり、「ギャンブル等依存が疑われる者」では現在も喫煙している割合が多く、統計学的にも有意であった。

ニコチン、アルコールを含む物質関連障害とギャンブル障害の併存⁷⁾⁸⁾について報告されており、クロスアディクションとの視点で啓発や相談対応等を進めていく必要がある。

④ 小児期逆境体験

回答者全体の29.3%に何らかの逆境体験を認めた。最も経験頻度が高いのは「学校でのいじめ被害」であった。また、SOGの得点区別に、18歳までの小児期逆境体験(10項目)のうち、1項目以上に該当する者の割合を比較したところ、SOG5点未満29.2%に対して、「ギャンブル等依存が疑われる者」では48.3%と有意に高かった。

小児期の逆境体験は、慢性的な身体疾患や精神保健上の問題を引き起こすことが明らかになっており小児期逆境体験と関連する精神保健上の問題として、うつや不安、自殺企図、アルコールや薬物などの物質関連障害が知られている⁹⁾。今回の調査で、小児期の逆境体験を持つ府民が一定数いることが推測され、府民の精神保健の健康の保持・増進において、小児期逆境体験による影響を考慮し、トラウマ関連事象への対策を進めていくことは、非常に重要である。

(5) 家族や重要な他者の中にギャンブル等の問題がある(あった)人の抑うつと不安との関連

「家族や重要な他者のギャンブル等の問題の有無」と「抑うつ・不安」との関連を検証すると、家族や重要な

他者のギャンブル等の問題がある(あった)人の有無でみると、K65 点以上の割合は、「いない」(24.9%)より、「いる」(42.2%)の方が有意に高かった。

家族や重要な他者のギャンブル等の問題がある(あった)人がの K6 の得点が高くなっている理由が、家族や重要な他者のギャンブル等の問題と直接的な関係があるかは定かではないが、ギャンブル等の問題は家族等への影響が高いと言われている。当センターの相談においては、家族が最初に相談にくることが多く、本人の支援だけでなく、家族等への支援も重要である。

(6) ギャンブル等依存症および依存症対策に関する認知度

① ギャンブル等依存症に対する考え方

「ギャンブル等依存症は病気である」については、82.4%の府民が知っていると回答しており、今後も依存症の正しい知識の理解が進んでいるかを把握することを目的に、経年で把握していくことが必要である。

また、「ギャンブル等依存症になるのは意志の問題ではない」、「ギャンブル等依存症のことで相談できる窓口がある」の2項目については、SOGS5点未満の者より、SOGS 5 点以上の者で認知度が高かった。

ギャンブル等依存の疑いのある者やその周囲の者が、依存症かもしれないと気づくことができるための依存症の正しい知識の普及啓発とともに、依存症かもしれないと気づいたときに、相談窓口にアクセスしやすい仕組みづくりが必要である。

② ギャンブル等依存症対策の認知度

「本人や家族の申請により、パチンコ・パチスロ店への入店が制限される仕組み」、「競馬・競輪・競艇・オートレースの入場が制限される仕組み」、「本人が申請することにより、金融機関からの貸付が受けられなくなる仕組み」については十分知られていないことがわかった。

競馬のインターネット投票におけるアクセス制限の実施件数(本人・家族申告)は、平成 30(2018)年 12 月末時点で、832 件(うち家族申請 31 件)、令和4(2022)年 3 月時点で、4,144 件(うち家族申請 100 件)と増加している。一方、競馬場や場外発売所への入場制限(本人・家族申告)は、平成 30(2018)年 12 月末時点で 12 件(うち家族申告0件)、令和4(2022)年 3 月末時点で 62 件(うち家族申告4件)であり、インターネット投票におけるアクセス制限数と比べると、競馬場や場外発売所への入場制限件数が少ない¹⁾¹⁰⁾。

公営競技の入場が制限される仕組みを含めた関係事業者の対策について広く周知していくためには、事業者からの発信だけでなく、府の啓発セミナー等での周知を行うことや、支援者向け研修等において情報提供を行う必要がある。

(7) ゲーム・インターネット

ゲーム・インターネットについて、SOGS 得点別に利用状況を比較してみると、ゲームについては、SOGS5 点未満の者では未利用が 38.2%、2時間以上が 23.0%に対し、SOGS5 点以上の者では未利用が 24.2%、2時間以上が 41.9%と、利用率が高く、利用時間も長かった。インターネットについても、SOGS5 点未満の者では未利用が 24.2%、2時間以上が 24.1%であるのに対し、SOGS5 点以上の者では未利用が 16.4%、2時間以上が 36.1%と、利用率が高く、利用時間も長い傾向がみられた。

しかしながら、ゲーム・インターネットの利用状況とインターネットにおけるギャンブル等と利用時間の関係性については、一概に関連があるとはいえない。

おわりに

本調査は、「大阪府ギャンブル等依存症対策推進計画」に定められた調査として、大阪府民における「ギャンブル等の経験」や「ギャンブル等行動」の実態、「ギャンブル等依存が疑われる者の割合の推計」「ギャンブル等依存が

疑われる者」におけるギャンブル等関連問題の実態等を明らかにすることを目的として実施した。これにより、大阪府におけるギャンブル等依存症対策を講じていく上での基礎資料を得ることができた。

なお、考察で述べたギャンブル等依存症対策の課題については、令和5年3月に施行された第2期大阪府ギャンブル等依存症対策推進基本計画をもとに、今後、取り組んでいく予定である。

本調査の結果のみで、大阪府民におけるギャンブル等依存が疑われる者の実態およびギャンブル等依存症の関連問題の実態について結論付けることは難しく、今後もギャンブル等依存症の本人及び家族等を対象とした調査・分析等を行い、継続的な観点から実態を把握することが望ましいと考えられる。

謝辞

最後に、本調査のためにご協力いただきました全ての方々に深く感謝を申し上げます。

ありがとうございました

参考文献

- 1)小原圭司「医学のあゆみ」Vol.283 No.6 2022.11.5
- 2)Johansson J, Grant JE, Kim SW, et al: Risk factors for problematic gambling: a critical literature review. *J Gambl Stud* 25:67-92, 2009
- 3)Goodie AS, MacKillop J, Miller JD, Fortune EE, Maples J, Lance CE, Campbell WK: Evaluating the South Oaks Gambling Screen with DSM-IV and DSM-5 criteria: Results from a diverse community sample of gamblers. *Assessment*, 20(5):523-531, 2013
- 4)第2期大阪府ギャンブル等依存症対策推進計画 令和5年3月策定
- 5)令和2年度実施「ギャンブル等と健康に関する調査」報告書(大阪府)
- 6)厚生労働省 国民生活調査 <https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/20-21.html>
- 7)松下幸生「ギャンブル障害 現状とその対応」*精神医学* 60:161-172, 2018; Hodgins DC, Stea JN, Grant JE: Gambling disorders. *Lancet* 378:1874-1884
- 8)Dowling NA, Cowlishaw S, Jacson AC, et al: Prevalence of psychiatric co-morbidity in treatment-seeking problem gamblers: A systematic review and meta-analysis. *Aust N Z J Psychiatry* 49:519-539, 2015
- 9)Hughes K, Bellis MA, Hardcastle KA, Sethi d, Butchart A, Mikton C, Jones L, Dunne MP: The effect of multiple adverse childhood experiences on health: a systematic review and metaanalysis. *Lancet Public Health*. 2017 Aug; 2(8):e356-e366
- 10)内閣官房ギャンブル等依存症対策推進本部事務局. ギャンブル等依存症対策推進計画. 平成31年4月19日閣議決定) 令和3年までの進捗状況について 令和4年6月

巻末資料

(1)「健康と生活に関する調査」結果検討会議委員名簿(五十音順 敬称略)

委員名	所属	備考
今村 知明	公立大学法人 奈良県立医科大学公衆衛生学講座 教授	学識経験者
岩田 和彦	地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪精神医療センター 院長	依存症治療拠点機関
小原 圭司	島根県立心と体の相談センター 所長	関係行政機関
滝口 直子	大谷大学 社会学部 名誉教授	学識経験者
野田 龍也	公立大学法人 奈良県立医科大学公衆衛生学講座 准教授	学識経験者

(2)全国および他府県市のギャンブル等依存症にかかる実態把握調査結果

	今回の調査 (大阪府(R4))	前回の調査 (大阪府(R2))	全国		他の県市		
			全国調査(R2)*1 結果報告	全国調査(H29)*2 中間とりまとめ	長崎県(R2)*3 結果報告	神奈川県(R1)*4 速報版	横浜市(R1)*5 結果報告
実施主体	大阪府	大阪府	久里浜医療センター ※厚生労働省令和2年度 依存症に関する調査研究 事業	日本医療研究開発機構 (AMED) ※久里浜医療センターに委託	長崎県	神奈川県	横浜市
調査方法	自記式もしくは WEB入力による アンケート	自記式もしくは WEB入力による アンケート	自記式もしくは WEB入力による アンケート	面接調査	自記式アンケート	自記式アンケート	面接調査
調査対象者	18,000名	5,000名	17,955名	10,000名	6,000名	6,750名	3,000名
対象者の選択方法	大阪市・堺市を含む 大阪府内の住民基本台帳 より無作為抽出 (18歳以上)	大阪市・堺市を含む 大阪府内の住民基本台帳 より無作為抽出 (18歳以上)	全国の住民基本台帳 より無作為抽出 (18歳以上75歳未満の 日本国籍を有する者)	全国の住民基本台帳 より無作為抽出	長崎県内の住民基本台帳 より無作為抽出 (18歳以上)	横浜を除く県内の 住民基本台帳より 無作為抽出 (18歳以上75歳未満)	横浜市内の 住民基本台帳より 無作為抽出 (18歳以上75歳未満)
回答者数	3,886名 (回収率21.6%)	1,583名 (回収率31.7%)	8,469名 (回収率47.2%)	4,685名 (回収率46.9%)	2,045名 (回収率34.0%)	2,687名 (回収率39.8%)	1,263名 (回収率42.1%)
うち有効数	3,785名 (回収率21.0%)	1,552名 (回収率31.0%)	8,223名 (回収率45.8%)	4,685名	2,010名 (回収率33.5%)	2,257名 (回収率33.4%)	1,263名
過去1年以内で ギャンブル等依存が 疑われる者 (SOGS 5点以上)*	1.9%(1.5~2.3%) (64名/3,683名)	1.3%(0.8~2.0%) (22名/1,500名)	2.2%(1.9~2.5%) (165名/7,985名)	0.8%(0.5~1.1%) (32名/4,685名)	2.1%(1.5~2.8%) (41名/2,010名)	0.8%(0.4~1.2%) (16名/2,257名)	0.5%(0.3~1.1%) (7名/1,263名)

※%は年齢調整後の数値。人数は年齢調整前の実数

- *1 松下幸生, 新田千枝, 遠山朋海; 令和2年度 依存症に関する調査研究事業「ギャンブル障害およびギャンブル関連問題の実態調査」, 2021年
- *2 樋口進、松下幸生: 国内のギャンブル等依存に関する疫学調査(全国調査結果の中間とりまとめ) (https://kurihama.hosp.go.jp/about/pdf/info_20171004.pdf) (2023年1月25日アクセス)
- *3 長崎県: 令和2年度 長崎県におけるギャンブル等の問題に対する意識や行動傾向の調査 調査A 一般県民を対象とした「長崎県におけるギャンブル等の問題に対する意識や行動傾向の実態調査」 (<https://www.pref.nagasaki.jp/shared/uploads/2022/01/1641619443.pdf>) (2023年1月25日アクセス)
- *4 神奈川県: 県内のギャンブル等依存症の実態調査の速報について (<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/nf5/prs/r3367209.html>) (2023年1月25日アクセス)
- *5 横浜市都市整備局: 横浜市民に対する娯楽と生活習慣に関する調査(調査結果の取りまとめ) https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/toshiseibi/sogotyousei/IR/chousakekka.files/0004_20200409.pdf (2023年1月25日アクセス)

(3)調査票(次頁)

ID	
----	--

PASS	IDと同じ
------	-------

※ この ID は、重複した回答がないかを確認するためのものであり、あなたの個人情報と紐づけたものではありません。



「健康と生活に関する調査」アンケート



◆◆◆ ご協力をお願い ◆◆◆

- ・ 大阪府こころの健康総合センター(大阪市住吉区)は、大阪府が設置する精神保健福祉センターです。
- ・ わたしたちは、ギャンブル等依存症対策事業の一環として、大阪府にお住まいの 18 歳以上の方、計 18,000 名を対象とする調査を実施しております。
- ・ 市・区役所あるいは町村役場の住民基本台帳を使って、無作為に選んだところ、あなたが対象者として選ばれました。
- ・ 調査の主な目的は、ギャンブル等の参加状況、ギャンブル等依存症の疑いがある人の割合、こころやからだの健康、生活習慣等を調べることです。調査結果は、大阪府の依存症対策を考える上での大切な基礎資料となります。
- ・ このアンケートは、無記名で行い、個人は特定されません。また、アンケートの参加・不参加は、あなたの自由意志で決めることができます。
- ・ この調査の実施につきましては、調査会社の「株式会社エム・アールビジネス」に委託しております。
- ・ お忙しいところ、大変恐縮ではございますが、調査の趣旨と目的をご理解いただき、アンケートへのご協力をお願いいたします。

《調査委託業者・お問い合わせ先》

(株)エム・アールビジネス

〒541-0051 大阪市中央区備後町 2-4-9 日本精化ビル 6 階

電話番号 06-6231-9541

FAX 06-6231-9543

<受付時間:平日 10 時~12 時、13 時~17 時>

担当:山野/有元

《実施主体》

〒558-0056 大阪市住吉区万代東3丁目1番 46 号

大阪府こころの健康総合センター 相談支援・依存症対策課

調査の流れ（調査期間は、11月1日～11月30日です。）

1 調査のご案内(本資料)

- 送付物：① 「健康と生活に関する調査」について
② 「健康と生活に関する調査」インターネット回答のご案内
③ 「健康と生活に関する調査」アンケート
④ アンケート用紙返送用封筒(紙回答用)

2 アンケートにご回答

このアンケート用紙または、インターネット(スマートフォン、パソコンなど)でご回答ください。

3 アンケートのご提出

ご提出の方法は、以下からお選びいただきます。

- 郵送で提出(最寄りのポストへご投函ください)
- インターネット(スマートフォン、パソコンなど)で回答

① 郵送による回答:令和4年11月30日(水)までに

記入済みのこのアンケート用紙を同封の返信用封筒(切手不要)に入れてご投函ください。

② インターネット回答:令和4年11月30日(水)23時59分までに

(スマートフォン・パソコン)

別紙の「インターネット回答のご案内」をご参照の上、パソコンやスマートフォンからご回答ください。

4 アンケートの集計

(株)エム・アールビジネスが行います。

5 アンケート結果の公表

アンケートの結果は、対象者全体をまとめた形で集計します。

調査報告書は大阪府こころの健康総合センターホームページで公開いたします。

(R5年3月末公開予定)

これまでの調査結果も公開されていますので、ぜひご覧ください。

ホームページ:<http://kokoro-osaka.jp/>





「健康と生活に関する調査」アンケート

ご回答いただく前にお読みください。

- このアンケートは、匿名(無記名)です。個人が特定されることはありません。
- このアンケートへの回答は、あなたの自由意志によるものです。「答えたくない質問」や「わからない質問」、「負担を感じる質問」には答えなくても問題ありません。
- ご回答は、ボールペン(黒や青)でお願いいたします。
- 質問をよく読んで、あてはまる番号に○(インターネット回答の場合は選択)をするか、数字を記入(インターネット回答の場合は入力)してください。
- あなたの回答によって、次の質問が変わる項目がありますので、矢印や説明文に従って、質問項目を確認してください。
- あなたの回答は、全体を集計する形でまとめられて、大阪府の依存症対策等の各種対策に役立てられます。

最初に、あなた自身やご家族のことについて、質問します。

問1 あなた(お送りした封筒のあて名のご本人)の性別を教えてください。(○は1つ)

- 1 男性 2 女性 3 その他 4 答えたくない

問2 あなたの年齢を教えてください。(□に数字を記入)

満

--	--	--

 歳

問3 あなたは現在、結婚されていますか。あなたの状況に最も近いものを1つ選んでください。(○は1つ)

- 1 結婚している 5 未婚(結婚したことがない)
2 内縁関係(配偶者のような関係) 6 別居中
3 死別した 7 答えたくない
4 離婚した

問4 あなたは現在、誰と住んでいますか。(一緒に住んでいる方全員に○)

- 1 一人暮らし 8 祖父・祖母
2 配偶者 9 孫
3 6歳未満の子ども 10 配偶者の父・母
4 6歳以上の子ども 11 子どもの配偶者
5 父親 12 その他()
6 母親 13 答えたくない
7 兄弟姉妹

ここからは、ギャンブル等について質問します。

ギャンブル等とは、結果が偶然に左右されるゲームや競技に対して、金銭を賭ける行為のことを言います。

この調査では、競馬、競輪、競艇、などの公営ギャンブル、パチンコ・パチスロのほか、宝くじやスポーツ振興くじ、証券の信用取引(FX)など幅広くギャンブル等についてお伺いします。

問 11 あなたはこれまでギャンブル等をしたことがありますか。
この調査で「ギャンブル等」とは、下の(ア)～(シ)のことです。(ア)～(シ)のギャンブル等について、今までに経験したもののすべての番号に○をつけてください。(○はタテにいくつでも)

問 12 前の【問11】で、(ア)～(シ)で○をつけたギャンブル等について、過去1年間はどのくらいの頻度で行っていましたか。「1 過去1年間全くしていない」、「2 週1回未満」、「3 週1回以上」からあてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。(それぞれヨコに○は1つ)

	【問11】 今までに経験 したことがあ るギャンブル 等について あてはまる番 号すべてに○		【問12】 【問11】(ア)～(シ)で ○をつけたギャンブル等に ついて過去1年間の頻度		
			過去 1年間 全くして いない	週1回 未満	週1回 以上
例) トランプ	例) ①	→	1	②	3
(ア) パチンコ	1	→	1	2	3
(イ) パチスロ	2	→	1	2	3
(ウ) 競馬	3	→	1	2	3
(エ) 競輪	4	→	1	2	3
(オ) 競艇(ボートレース)	5	→	1	2	3
(カ) オートレース	6	→	1	2	3
(キ) 宝くじ(ロト・ナンバーズ等含む)	7	→	1	2	3
(ク) スポーツ振興くじ(サッカーくじ等)	8	→	1	2	3
(ケ) インターネットを使ったギャンブル (具体的に:) ※上記(ウ)～(ク)で、券等の購入のためにイ ンターネットを使ったものを除く	9	→	1	2	3
(コ) 証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX	10	→	1	2	3
(サ) 海外のカジノ	11	→	1	2	3
(シ) その他のギャンブル (具体的に:)	12	→	1	2	3
(ス) 上記の <u>いずれも</u> したことはない	13	→	(ス)を選んだ方のみ 10 ページ【問34】へ進む		

※ 【問11】で「(ス)上記のいずれもしたことはない」を選んだ方は、10 ページ【問34】へお進みください。

※【問 13】は【問 11】で、(ウ)競馬、(エ)競輪、(オ)競艇、(カ)オートレース、(キ)宝くじ、(ク)スポーツ振興くじのいずれかに○をつけた人にお尋ねします。(ウ～ク)を選ばなかった方は、【問 14】へお進みください。

問 13 主にどこで券を購入しますか。ギャンブル等ごとに、あてはまる番号を 1 つ選んで○をつけてください。

	ギャンブル場または、 売り場(場外含む)	オンライン (インターネット)	ギャンブル場または売り 場(場外含む)と オンラインの両方
(ウ) 競馬	1	2	3
(エ) 競輪	1	2	3
(オ) 競艇(ボートレース)	1	2	3
(カ) オートレース	1	2	3
(キ) 宝くじ(ロト・ナンバーズ等含む)	1	2	3
(ク) スポーツ振興くじ (サッカーくじ等)	1	2	3

※【問 14】～【問 33】は、【問 11】で「ア パチンコ」～「シ その他のギャンブル」のいずれかに○をつけた方(これまでにギャンブル等をしたことがある方)にお伺いします。

問 14 初めてギャンブル等をしたのは何歳の時でしたか。(口に数字を記入)

		歳
--	--	---

問 15 あなたが、少なくとも月 1 回以上の頻度で、習慣的にギャンブル等をするようになったのは何歳でしたか。(口に数字を記入)

※ 月 1 回以上の頻度で、習慣的にギャンブル等をしたことがない場合は、口に×とご記入ください。

		歳
--	--	---

問 16 過去 1 年間で、最もお金を使った(つぎ込んだ)ギャンブル等はどれですか。1 つ選んで○をつけてください。(○は 1 つ)

- | | |
|---------------------|--|
| 1 パチンコ | 8 スポーツ振興くじ(サッカーくじ等) |
| 2 パチスロ | 9 インターネットを使ったギャンブル
(3～8で、券等の購入のためにインターネットを使ったものを除く) |
| 3 競馬 | 10 証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX |
| 4 競輪 | 11 海外のカジノ |
| 5 競艇(ボートレース) | 12 その他のギャンブル() |
| 6 オートレース | 13 過去1年間はギャンブル等を全くしていない |
| 7 宝くじ(ロト・ナンバーズ等も含む) | |

問 17 過去1年間、1か月あたりギャンブル等にどのくらいお金をかけていますか。
勝ったお金は含めずにお答えください。(□に数字を記入)

※ 過去1年間はギャンブル等をしていない場合は0円と回答してください。

				万				円
--	--	--	--	---	--	--	--	---

問 18 過去1年間で、ギャンブル等で負けた時、負けた分を取り戻すために、また別の日にギャンブル等をしたことがありますか。最も近いものを1つ選んでください。(○は1つ)

- | | |
|--------------------------|-----------------|
| 1 全くそのようなことをしたことはない | 3 負けた時はたいていそうした |
| 2 時々そうした(負けた回数の半分はしていない) | 4 負けた時はいつもそうした |

問 19 過去1年間に、実際はギャンブル等で負けたのに、勝っていると家族や友人、その他の人に伝えたことがありますか。最も近いものを1つ選んでください。(○は1つ)

- | | |
|-------------|--------------------|
| 1 いいえ、一度もない | 2 はい、でも負けた回数の半分もない |
| | 3 はい、たいていそうだった |

問 20 過去1年間で、自分にギャンブル等の問題があると思ったことがありますか。(○は1つ)

- | | |
|------|-------|
| 1 はい | 2 いいえ |
|------|-------|

問 21 過去1年間で、意図していた以上にギャンブル等をしたことがありますか。(○は1つ)

- | | |
|------|-------|
| 1 はい | 2 いいえ |
|------|-------|

問 22 過去1年間で、あなたのギャンブル等についてまわりの人から非難されたことがありますか。(○は1つ)

- | | |
|------|-------|
| 1 はい | 2 いいえ |
|------|-------|

問 23 過去1年間で、自分のギャンブル等のやり方や、ギャンブル等によって生じたことについて罪悪感を感じたことがありますか。(○は1つ)

- | | |
|------|-------|
| 1 はい | 2 いいえ |
|------|-------|

問 24 過去1年間で、実際にはやめられないとわかっているにもかかわらず、ギャンブル等をやめたいと思ったことはありますか。(○は1つ)

- | | |
|------|-------|
| 1 はい | 2 いいえ |
|------|-------|

問 25 過去1年間で、ギャンブル等をしていることを配偶者や子ども、その他あなたにとって大事な人に知られないように、ギャンブル等の券や宝くじ、ギャンブル等に使うための資金などを隠したことがありますか。(○は1つ)

1 はい

2 いいえ

問 26 過去1年間で、お金の使い方について、同居している人と口論になったことがありますか。(○は1つ)

1 いいえ →【問 28】へ

2 はい →【問 27】へ

※ 【問 27】は、【問 26】で「2 はい」と答えた方にお伺いします。

問 27 そのお金に関する口論の原因が、主にあなたのギャンブル等だったことがありますか。(過去1年間に起こった口論)(○は1つ)

1 はい

2 いいえ

問 28 過去1年間に、誰かからお金を借りたのに、ギャンブル等のために返せなくなったことがありますか。(○は1つ)

1 はい

2 いいえ

問 29 過去1年間に、ギャンブル等のために、仕事や学業の時間を浪費したことがありますか。(○は1つ)

1 はい

2 いいえ

問 30 過去1年間で、ギャンブル等のためか、ギャンブル等による借金を返すためにお金を借りた経験がありますか。(○は1つ)

1 ある →【問 31】へ

2 ない →【問 32】へ

※【問31】は、【問30】で「1 ある」と答えた方への質問です。

問31 過去1年間に、誰またはどこから借りましたか。
次の(a)～(j)のそれぞれについて、「はい」か「いいえ」でお答えください。(それぞれ○は1つ)

過去1年間に	はい	いいえ
(a) 家計から借りましたか	1	2
(b) 配偶者から借りましたか	1	2
(c) その他の親戚から借りましたか	1	2
(d) 銀行、ローン会社、信用組合等の金融機関、サラ金などの貸金業者等から借りましたか	1	2
(e) クレジットカードで借りましたか	1	2
(f) 闇金融から借りましたか	1	2
(g) 株券、債券、保険を換金して借りましたか	1	2
(h) 自分または家族の財産を処分して借りましたか	1	2
(i) 当座預金口座から(不正な小切手を発行した)借りましたか	1	2
(j) その他 ()	1	2

※【問32】は、【問30】で「ない」と答えた方と【問31】に答えた方全員への質問です。

問32 以下の9つの質問について、過去1年間のあなたの状況に最もよくあてはまる番号を、「0 全くない」～「3 ほとんどいつも」から1つ選んでください。(それぞれ○は1つ)

過去1年間に	全くない	ときどき	たいていの場合	ほとんどいつも
① どのくらいの頻度で、失っても本当に大丈夫な金額以上のお金を賭(か)けましたか	0	1	2	3
② どのくらいの頻度で、同じだけの興奮の感覚を得るために、それまでよりも多くの金額をギャンブル等に費やさなければなりませんでしたが	0	1	2	3
③ どのくらいの頻度で、ギャンブル等で負けた金額を取り返そうと別の日にギャンブル等をしに戻りましたか	0	1	2	3
④ どのくらいの頻度で、ギャンブル等をするお金を得るために借金をしたり、物を売ったりしましたか	0	1	2	3
⑤ どのくらいの頻度で、自分がギャンブル等に関して問題を抱えているかもしれないと感じましたか	0	1	2	3
⑥ どのくらいの頻度で、あなたがその通りだと思うかどうかに関わらず、周囲の人々があなたがギャンブル等をするのを批判したり、あなたがギャンブル等の問題を抱えていると言ってきたりしましたか	0	1	2	3
⑦ どのくらいの頻度で、自身のギャンブル等のやり方や、ギャンブル等の結果として起こることについて、悪いとか申し訳ないと感じましたか	0	1	2	3
⑧ どのくらいの頻度で、ギャンブル等が健康問題を引き起こしましたか。これにはストレスや不安も含まれます	0	1	2	3
⑨ どのくらいの頻度で、ご自身のギャンブル等によって、あなたやご家庭に金銭的な問題が引き起こされましたか	0	1	2	3

問 33 あなたはこれまでに、あなた自身のギャンブル等のことで、だれか(どこか)に相談したことはありますか。あてはまる番号をすべて選んで○をつけてください。(○はいくつでも)

- | | |
|---|------------------------|
| 1 家族や友人 | 4 医療機関 |
| 2 学校の先生や学生相談窓口 | 5 法律の専門家(弁護士、司法書士等) |
| 3 公的な相談機関 | 6 民間の相談機関(無料電話相談、回復施設) |
| 例:市区町村、保健所、精神保健福祉センター(大阪府
こころの健康総合センター・大阪市こころの健康セ
ンター・堺市こころの健康センター)など | 7 自助グループ |
| | 8 その他 () |
| | 9 だれ(どこ)にも相談したことはない |

※ ここからは全員への質問です。ギャンブル等をしたことがない方もお答えください。

問 34 次にあげる人の中に、ギャンブル等の問題がある(あった)人はいますか。今はなくとも過去にギャンブル等の問題があった人についても○をつけてください。(○はいくつでも)

- | | |
|---------|--------------------|
| 1 父親 | 5 配偶者(内縁関係を含む) |
| 2 母親 | 6 子ども |
| 3 兄弟姉妹 | 7 恋人・交際相手 |
| 4 祖父・祖母 | 8 上記以外のあなたにとって大事な人 |
| | 9 いない →【問 36】へ |
- 【問 35】へ

※ 【問 35】は、【問 34】で「1 父親」～「8 上記以外のあなたにとって大事な人」と答えた方にお伺いします。

問 35 あなたは、【問 34】で答えた人のギャンブル等の問題から、次のような影響を受けたことがありますか。影響を受けたことについて、あてはまる番号に○をつけてください。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------|-------------------------|
| 1 浪費、借金による経済的困難が生じた | 7 脅しや言葉の暴力を受けた |
| 2 借金の肩代わりをした | 8 ギャンブル等をやめられない人に怒りを感じた |
| 3 金品を盗まれた | 9 子どもへの暴力や不適切な養育してしまった |
| 4 殴る・蹴るなどの暴力を受けた | 10 アルコール問題(飲酒運転を含む)が生じた |
| 5 家庭不和・別居・離婚を経験した | 11 あてはまるものはない |
| 6 うつ状態になった | |

問36 もし、あなた自身や、あなたの重要な関係者(家族や友人、同僚、交際相手など)がギャンブル等のことで困りごとを抱えたら、だれ(どこ)に相談しますか。あてはまる番号をすべて選んで○をつけてください。(○はいくつでも)

- | | |
|---|------------------------|
| 1 家族や友人 | 4 医療機関 |
| 2 学校の先生や学生相談窓口 | 5 法律の専門家(弁護士、司法書士等) |
| 3 公的な相談機関 | 6 民間の相談機関(無料電話相談、回復施設) |
| (例:市区町村、保健所、精神保健福祉センター(大阪府
ころの健康総合センター・大阪市ころの健康セ
ンター・堺市ころの健康センター)など) | 7 自助グループ |
| | 8 その他 () |
| | 9 だれ(どこ)にも相談しない |

問37 ギャンブル等依存症について知っていることについて、あてはまる番号をそれぞれ1つずつ選んで○をつけてください。

ギャンブル等依存症とは、ギャンブル等にのめり込むことにより日常生活又は社会生活に支障が生じている状態のことをいいます。

	知っている	知らない
① ギャンブル等依存症は病気である	1	2
② ギャンブル等依存症は回復できる	1	2
③ ギャンブル等依存症になるのは意志の問題ではない	1	2
④ ギャンブル等依存症のことで相談できる窓口がある	1	2

問38 ギャンブル等依存症対策に関する、下記の①～③の仕組みについて、あてはまる番号をそれぞれ1つ選んで○をつけてください。(それぞれ○は1つ)

	知っている	知らない
① 本人や家族の申請により、パチンコ・パチスロ店への入店が制限される仕組み	1	2
② 本人や家族の申請により、競馬・競輪・競艇(ボートレース)・オートレースの入場が制限される仕組み	1	2
③ 本人が申請することにより、金融機関からの貸付が受けられなくなる仕組み	1	2

ここからは、あなたのこころやからだの健康、生活習慣について質問します。

問39 過去30日の間に、どれくらいの頻度で以下のことがありましたか。下記の①～⑥の質問について、最も適切と思われる番号(1 いつも～5 全くない)を選んで○をつけてください。(それぞれ○は1つ)

過去30日の間、	いつも	たいてい	ときどき	少しだけ	全くない
① 神経過敏に感じましたか	1	2	3	4	5
② 絶望的だと感じましたか	1	2	3	4	5
③ そわそわ、落ち着かなく感じましたか	1	2	3	4	5
④ 気分が沈み込んで、何が起ころうとも気が晴れないように感じましたか	1	2	3	4	5
⑤ 何をすることも骨折れだと感じましたか	1	2	3	4	5
⑥ 自分は価値のない人間だと感じましたか	1	2	3	4	5

問40 あなたは、これまでに自殺したいと考えたことがありますか。(○は1つ)

- 1 ある 2 ない 3 答えたくない

問41 あなたは、これまでに自殺未遂をしたことがありますか。(○は1つ)

- 1 ある 2 ない 3 答えたくない

問42 あなたが18歳までに経験したことがあるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

- 1 心理的虐待を受けた 7 性的虐待を受けた
 2 家庭内暴力(DV)を目撃した 8 両親の離婚
 3 精神疾患がある人との同居 9 刑務所に入ったことがある人との同居
 4 アルコール依存や薬物乱用のある人との同居 10 学校でのいじめ被害
 5 身体的虐待を受けた 11 あてはまるものはない
 6 ネグレクト(養育の放棄)を受けた 12 答えたくない

問43 あなたの喫煙(紙巻きタバコ、電子タバコ、加熱式タバコ含む)について、あてはまるものを1つ選んでください。(○は1つ)

- 1 吸ったことはない 2 以前吸っていたが現在はやめた 3 今も吸っている

問44 あなたはアルコールが含まれる飲料をどのくらいの頻度で飲みますか。(○は1つ)

- 1 全く飲まない 2 1か月に1回以下 4 1週間に2～3回
 3 1か月に2～4回 5 1週間に4回以上

問45 飲酒するときには通常どのくらいの量を飲みますか。
 下の「1 全く飲まない」～「6 10ドリンク以上」からあてはまる番号を1つ選んでください。
 (○は1つ)

※ ドリンク換算表を参考にお答えください。

※ ドリンク数の合計が小数の場合、小数点以下を四捨五入して回答してください。

- | | | |
|-----------|-----------|------------|
| 1 全く飲まない | 3 3～4ドリンク | 5 7～9ドリンク |
| 2 1～2ドリンク | 4 5～6ドリンク | 6 10ドリンク以上 |

《ドリンク換算表》

お酒の種類	摂取量	ドリンク数
ビール・発泡酒	コップ1杯(180ml)	0.7
	中瓶・ロング缶(500ml)	2.0
	大瓶(633ml)	2.5
	レギュラー缶(350ml)	1.4
	中ジョッキ(320ml)	1.3
日本酒(15%)	1合(180ml)	2.2
焼酎(20%) (25%)	1合(180ml)	2.9
	1合(180ml)	3.6
チューハイ(7%)	レギュラー缶(350ml)	2.0
	ロング缶(500ml)	2.8
	中ジョッキ(320ml)	1.8
ワイン(12%)	ワイングラス(120ml)	1.2
	フルボトル(750ml)	7.2
ウイスキー(40%)	シングル水割り(原酒で30ml)	1.0
	ダブル水割り(原酒で60ml)	2.0
	ボトル1本(720ml)	23.0
カクテル類(5%)	350ml 缶1本	1.4
	500ml 缶1本	2.0
梅酒(13%)	1合(180ml)	1.9

-- 飲酒量のドリンク換算例 --

①ビール【レギュラー缶】2本と焼酎(20%)1合
 →1.4ドリンク×2本+2.9ドリンク×1合
 =5.7ドリンク → **6ドリンク**

②チューハイ【ロング缶】2本とワイングラス3杯
 →2.8ドリンク×2本+1.2ドリンク×3杯
 =9.2ドリンク → **9ドリンク**

問46 1度に6ドリンク以上飲酒することがどのくらいの頻度でありますか。(○は1つ)

※ 上記の《ドリンク換算表》を参考にお答えください。

- | | | |
|------|------------|----------------|
| 1 ない | 2 1か月に1回未満 | 4 1週間に1回 |
| | 3 1か月に1回 | 5 毎日あるいはほとんど毎日 |

問47 1日のうち、娯楽として、ゲーム(パソコン、ゲーム機、スマートフォン、携帯電話などを使用するすべてを含む)を、平均何時間くらい利用していますか。

- | | |
|-------------|-------------------------------------|
| 1 全くしていない | 5 3時間～4時間未満 |
| 2 1時間未満 | 6 4時間～6時間未満 |
| 3 1時間～2時間未満 | 7 6時間以上 (時間) |
| 4 2時間～3時間未満 | |

問48 1日のうち、娯楽として、インターネットを利用し、SNS(LINE、インスタグラム、Twitter等)、動画サイトを含め、ウェブサイトの閲覧を、平均何時間くらいしていますか。

- | | |
|-------------|-------------------------------------|
| 1 全くしていない | 5 3時間～4時間未満 |
| 2 1時間未満 | 6 4時間～6時間未満 |
| 3 1時間～2時間未満 | 7 6時間以上 (時間) |
| 4 2時間～3時間未満 | |

以上で質問は終わりです。

記入もれはありませんか？

ご確認いただきましたら、同封の返信用封筒に入れて、令和4年11月30日(水)までにご投函ください。

※ 返信用封筒にはお名前や住所のご記入は必要ありません。

※ インターネットでご回答いただいた方は、アンケート用紙のご返送は不要です。

最後までご協力いただき、ありがとうございました。

**令和4年度実施
「健康と生活に関する調査」報告書**

発行日 令和5年3月

発行 大阪府こころの健康総合センター

〒558-0056 大阪市住吉区万代東 3-1-46

TEL 06-6691-2811（代） FAX 06-6691-2814

<http://kokoro-osaka.jp/>